阪南市埋蔵文化財報告XIX

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X

１９９５年

阪南市教育委員会

はしがき

本書で報告する調査は、国庫補助事業として個人住宅等の建設工事に先立って実施したものです。「文化財保護法第57条の２」の規定に基づいて届出のありました書類を検討し、工事によって遺構や遺物といった埋蔵文化財に影響があるとされる部分の調査を行っています。大半は数m²程度の小規模な調査でしたが、遺跡の概要等を知るうえで貴重な資料となる成果を得ることのできたものもありました。

ここにその成果を報告いたします。

今後、市民の皆様に信頼される埋蔵文化財の保護行政を行い乍ら、検討課題と致しまして、市独自の文化財保護条例の設置や多くの方々から要望が寄せられている歴史資料館の建設等長期的展望のもと文化財保護行政を一歩一歩推進していく所存です。

最後になりましたが、今回の調査にご協力下さった土地所有者をはじめとする関係者の方々に感謝の意を表するとともに、今後とも文化財保護にご理解、ご協力をお願い致します。

１９９５年３月

阪南市教育委員会
教育長　庄司菊太郎

例　言

1．本書は、阪南市教育委員会が、平成６年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2．調査は、阪南市教育委員会社会教育課三好義三、田中早苗、上野 仁を担当者として実施した。
3．本書内に示した標高は、T. P. であり、方位は既成の地形図等を使用したものを除いて磁北である。
4．調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と、協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5．本書の執筆、編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6．本調査における記録は、実測図面、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）
宇沢克之、堀川武良、橋本康之、木下楠治、辻野　勝、植田秀紀、伊庭　勉、渕本　巌、甲斐　易、和田旬世、井上祥子、井上賢治、丹羽　徹、村上亮平、中橋　泉、室谷順子

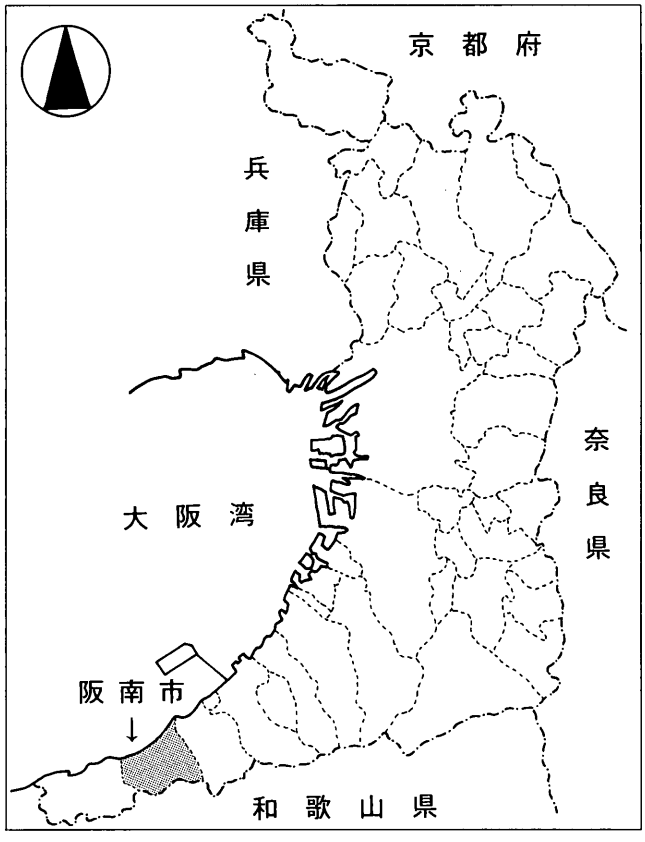
目　次

第１章　調査に至る経過　1
第２章　歴史的環境　2
第３章　調査の成果　5
第１節　尾崎海岸遺跡　94-1区　5
94-2区　6
第２節　福島遺跡　94-2区　6
第３節　馬川北遺跡　94-2区　8
第４節　馬川遺跡　93-5区　8
94-1区　１０
94-2区　１１
94-3区　１２
94-6区　１３
第５節　自然田遺跡　94-1区　１３
第６節　神光寺(蓮池)遺跡　94-1区　１４
第７節　下出遺跡　94-1区　１４
第８節　高田遺跡　94-1区　１５
第９節　高田南遺跡　94-1区　１６
第10節　黒田遺跡　94-1区　１７
第11節　波有手遺跡　94-1区　１８
第12節　鳥取遺跡　93-4区　１９
94-1区　２０
第13節　鳥取南遺跡　93-2区　２１
94-3区　２２
第14節　西鳥取遺跡　93-4区　２２
93-5区　２４
93-6区　２４
94-2区　２５
第15節　飯ノ峯畑遺跡　93-2区　２５
第16節　田山遺跡　94-1区　２６
94-2区　２７
94-3区　２８
第17節　田山東遺跡　94-1区　２９
第18節　山中渓遺跡　94-1区　３０
第４章　まとめ　３１

第１章　調査に至る経過

阪南市は、大阪府の南部にあり、大阪市の中心部から距離にして約４０km、公共交通機関を利用して１時間弱の地点に位置する。こうした地理的条件から、大阪のベッドタウンとしてここ十数年人口が急激に増加している。その背景には当然種々の住宅等の開発工事の増加がみられる。また、昨年９月に開港した関西空港建設に関連する工事等もこの数年、市域のあちらこちらでめまぐるしく行われている。

こうした工事の増加に伴い、1985年度より国庫補助事業として個人住宅等の建築に先立って発掘調査を実施している。今年度は１８遺跡、３０ヵ所の調査を行った。そのほとんどが小規模のものではあるが、これまでに知られている遺跡の概要を裏付ける等、ある程度の成果を得ることのできた調査であったと考えている。以下にその概要を報告する。



第１図　阪南市位置図

第2章　歴史的環境

大阪府の南西部に位置する阪南市は、大阪湾を北に面し、岬町から葛城山までにいたる和泉山脈を南にひかえている。また、山脈から派生する丘陵部の間を男里川、花折川、釈迦坊川、茶屋川等が大阪湾に流れ込み、それぞれ段丘や沖積地を形成している。現在の人々の生活区域は、こうした台地や低地部が主であり、埋蔵文化財包蔵地の分布も、多くはこれに一致する。現在、阪南市には約60数個所の埋蔵文化財包蔵地があり、時代別にその時代を反映すると考えられる遺跡とその出土遺物を以下に述べる。

縄文時代としては、神光寺（蓮池）遺跡から、有茎尖頭器が採取されている。これは、幅が広く「柳又型」と呼ばれ形態から縄文時代草創期と思われる。また、馬川北遺跡では後期から晩期、高田遺跡では晩期の縄文土器片が出土しているのをはじめ、玉田山、貝掛、田山、自然田等の諸遺跡で石鏃をはじめとする各種の遺物が出土している。

弥生時代としては、神光寺（蓮池）遺跡において、方形周溝墓が検出されており、中期弥生式土器、石包丁をはじめとする石器が出土している。また、馬川、馬川北、久保田、鳥取南等の諸遺跡において、後期弥生式土器等の遺物が出土している。生産遺跡として尾崎海岸遺跡がみられ、弥生時代末期から古墳時代初期の製塩土器や蛸壷等が出土している。

古墳時代中期としては、茶屋川左岸台地に位置し小型の帆立貝式前方後円墳であった箱作古墳と現在の阪南市役所に位置していた皿田池古墳の２つの存在が史料等の記録からわかる。後期になると玉田山古墳群、塚谷古墳群、高田山古墳群が築造されており、現存する玉田山１号墳からは、須恵器長頸壷、金環、銀環、琥珀製棗玉等多数の遺物が出土している。

以下、歴史時代になると、奈良時代としては１９９２年度の公共工事によって発見周知された波有手遺跡を揚げることができる。土坑や溝等の遺構に伴い「海」「水」「省」「佐土」と記された墨書土器が３０数点も出土している。また、箱作今池遺跡や田山遺跡においても、須恵器、土師器、蛸壷、製塩土器等が出土しているほか、奈良時代と考えられる掘立柱建物跡や溝等の遺構が検出されている。特異なものとしては、貝掛遺跡から出土した奈良三彩長坏が揚げられる。

平安時代としては、馬川遺跡において複弁蓮華文軒丸瓦が出土しており、その南方の平野寺（長楽寺）跡からも複弁蓮華文軒丸瓦や均整唐草文軒平瓦が採取されている。

中世以降になると、市内のほとんどの遺跡で、遺構や遺物が確認されている。

鎌倉・室町時代としては、田山遺跡や箱作今池遺跡等において、瓦器埦、瓦質羽釜等の生活雑器や蛸壷、土錘等の漁撈関係遺物が出土していることから、その地域において、当時の漁村の存在を推定することができる。また、馬川遺跡や平野寺（長楽寺）跡でも、軒丸瓦、軒平瓦が出土していることから、平安時代末期の寺院が続いていたことがわかる。ほか、南北朝期には、飯ノ峯川流域の山地に井山城の存在が以前より文献上で知られていたが、先年の調査により、この地において国人たちの合戦が

行われていたことがわかる山城の存在が考古学的にも実証されることになった。

近世になると当時の史料から市域には、尾崎、下出、黒田、新、波有手、石田、中、自然田、山中、桑畑の各村が「鳥取郷（鳥取庄）」としてまとまり、箱作、貝掛、舞は「下ノ庄」として存在し、後に誕生する山中新田をあわせて、１４ヵ村が存在した。

この時期の集落として明治期に廃絶した「舞村」の存在が、先年の貝掛遺跡の調査により確認されている。この調査では、近世陶磁器片が多量に出土、鍛冶炉やそれに伴う建物跡等の遺構が検出され、この貝掛遺跡の南方の金剛寺遺跡においても同時期の建物跡、石組の井戸等の遺構と遺物が検出されている。

近世期の集落で文献史料等からその様子がわかるものとして、尾崎村が揚げられ、村域には西本願寺別院があり街道に沿う町場を形成し、商工業の中心地であったことがわかる。また、村域にある尾崎海岸遺跡では、前述のように弥生時代から近世までの製塩関係遺構や遺物が検出され、近世期に限らず各時代の蛸壷や土錘等の漁撈遺物が出土し、漁村としての様子も伺える。ほか、新、波有手、貝掛、箱作等の海岸沿いの村域でも同様の遺物が出土していて漁村的要素が伺える。

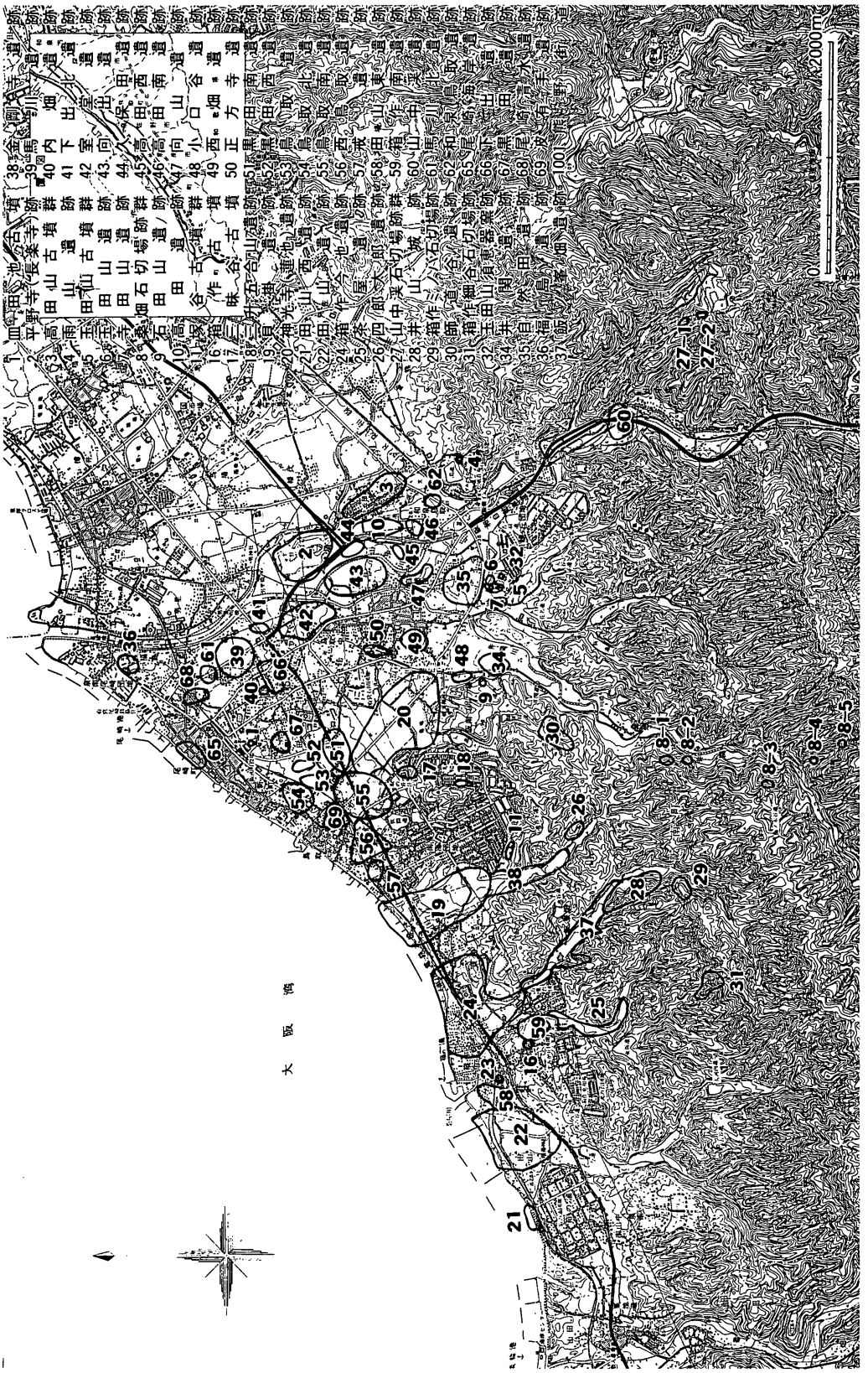
また、山中村は大阪（難波）から和歌山（紀州）へ抜ける紀州街道の宿場町として栄え、その当時の町並みは、現在の町並みにも反映している。また、馬川、内畑等の遺跡においても溝や土坑等の遺構とともに近世陶磁器（伊万里、瀬戸、唐津、備前等）が出土している。

当時、泉州地域特産である和泉砂岩の採掘場である箱作ミノバ石切場跡等が特異な遺跡として知られる。それに伴う集落として飯ノ峯畑遺跡がみられる。

以上が本市における埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。以下の章においては、本年度国庫補助事業として行われた調査の成果を報告する。

（参考）

『阪南町史』　上巻　阪南町　　１９８３年
『田山遺跡』（財）大阪文化財センター　　１９８３年
『田山・神光寺遺跡発掘調査概要』　阪南町教育委員会　　１９８６年
『井山城跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会　　１９８８年
『貝掛遺跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会　　１９８８年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅶ』　阪南市教育委員会　　１９９２年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ』　阪南市教育委員会　　１９９３年
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅸ』　阪南市教育委員会　　１９９４年

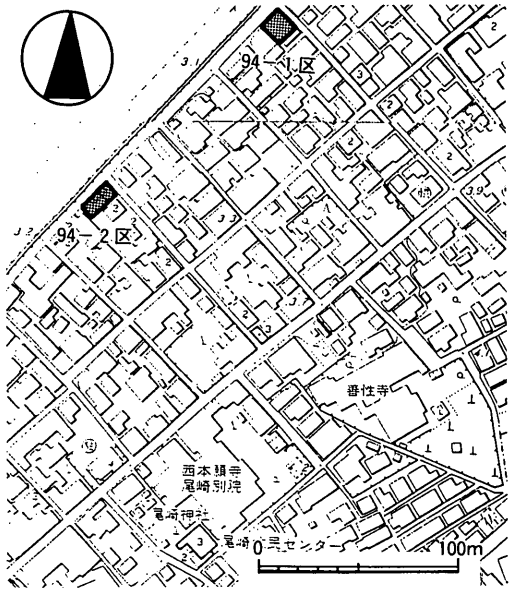


第２図　阪南市内埋蔵文化財分布図

第３章　調査の成果

第１節　尾崎海岸遺跡

尾崎海岸遺跡は、現海岸線と旧街道(浜街道)に挟まれ東西に延びる。近世期の尾崎村、現在の尾崎地区の中心地とほぼ一致する。1991年の住宅建築工事の折に発見周知された遺跡である。この調査(90-1区)は、砂地に焼けた石が約３m四方に敷き詰められ、その上に弥生時代から古墳時代の土器・蛸壷等が多数散乱していたため、製塩炉であったと考えられる。このことから、生産遺跡の性格をもつことが考えられる。90-1区の南方部における1992年度の調査(92-1区)では、遺構は検出されなかったが、包含層から弥生式土器・土師質土器等の遺物が出土した。

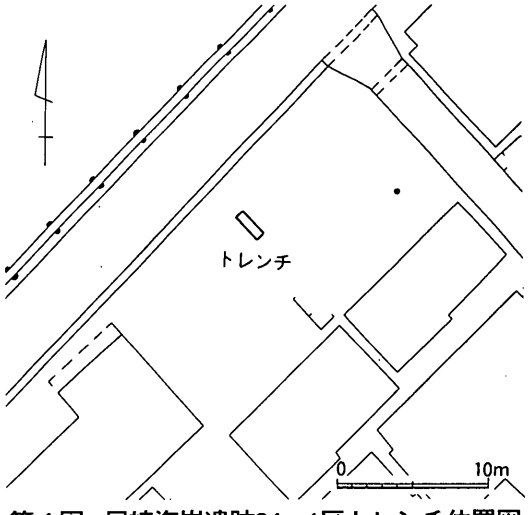


第３図　尾崎海岸遺跡調査区位置図

９４－１区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の北端部に位置する。調査は、調査区内に２.２m×０.５mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層近年の盛土、第２層茶色砂、第３層暗茶色礫混砂、第４層淡茶色砂(地山)であった。遺物は第１層で寛永通宝、第２層から製塩土器、焼石、貝殻等、第３層から土師器、製塩土器、蛸壷、管状土錘、貝殻、焼土魂等が出土した。第３層の遺物の多くは中世のものであるが、弥生時代末期から古墳時代初期の高坏と脚台付製塩土器が各１点出土している。また、上述したように92-１区で出土したと同じような焼石も多数出土していることから付近に製塩炉の存在が考えられる。



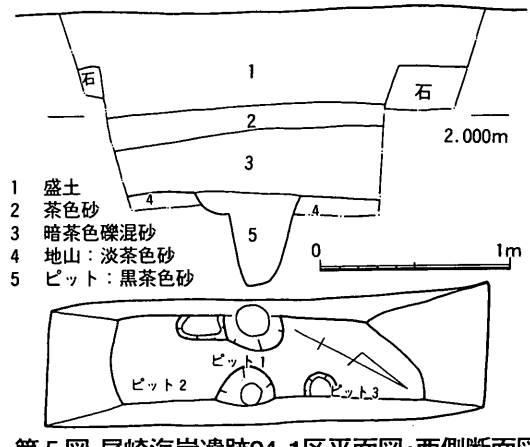
第４図　尾崎海岸遺跡94－1区トレンチ位置図

b．遺構

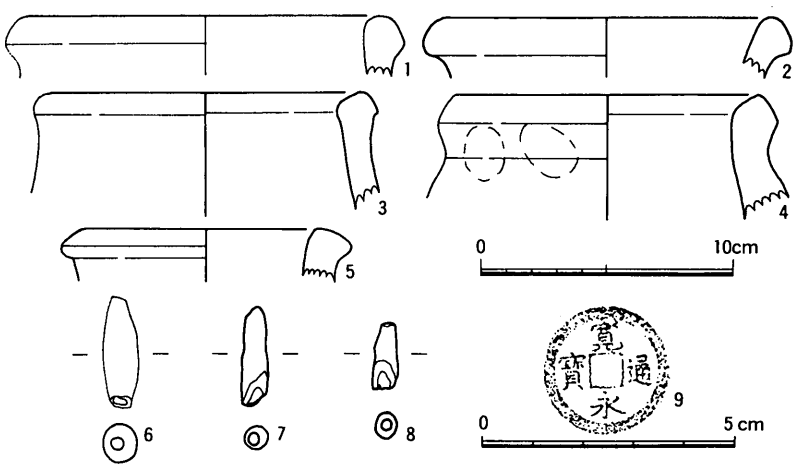
遺構は小ピットを３個検出した。埋土はいずれも黒茶色砂でピット１で焼土魂、ピット２で貝殻が出土したが、時代は不明である。

c．遺物

１～５は土師質蛸壷で中世のものである。６～８は土師質管状土錘で第３層より出土し



第５図 尾崎海岸遺跡94-1区平面図・西側断面図



第６図　尾崎海岸遺跡94-1区出土遺物

た。９は寛永通宝で第１層より出土した。

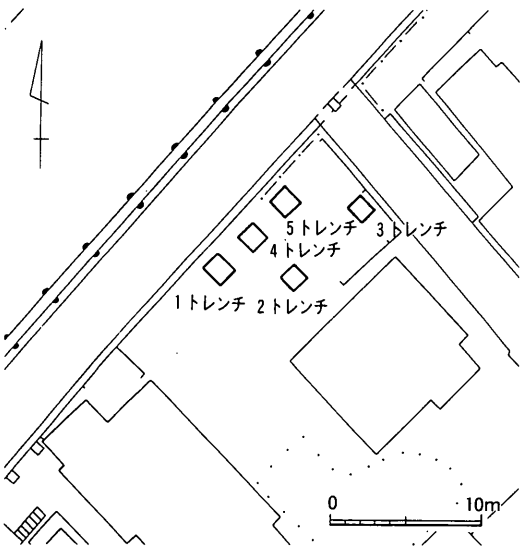
９４－２区

ａ．調査の概要

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査区内にトレンチを５ヵ所設定し、調査を実施した。調査区は、現海岸に隣接する位置にある。地質が砂層でトレンチの肩が崩れる等調査に支障をきたし、また、今回の基礎工事によって掘削を受ける部分は現地表面より ０.８ｍしかおよばない等の理由から、その地点で調査を中止した。そのため地山は確認できなかった。基本層序は第１層盛土、第２層淡茶黄色砂質土であった。遺物は第２層から、土師器、蛸壷等が出土した。

ｂ．遺物

１～５は蛸壷の口縁部である。１～４はその形態から鎌倉時代、５は室町時代と考えられる。６～２４は土師質管状土錘、２５～２７は磁器の高台部で、２６・２７については瀬戸焼の碗である。１～２７すべて第２層から出土した。



第７図　尾崎海岸遺跡94-2区トレンチ位置図

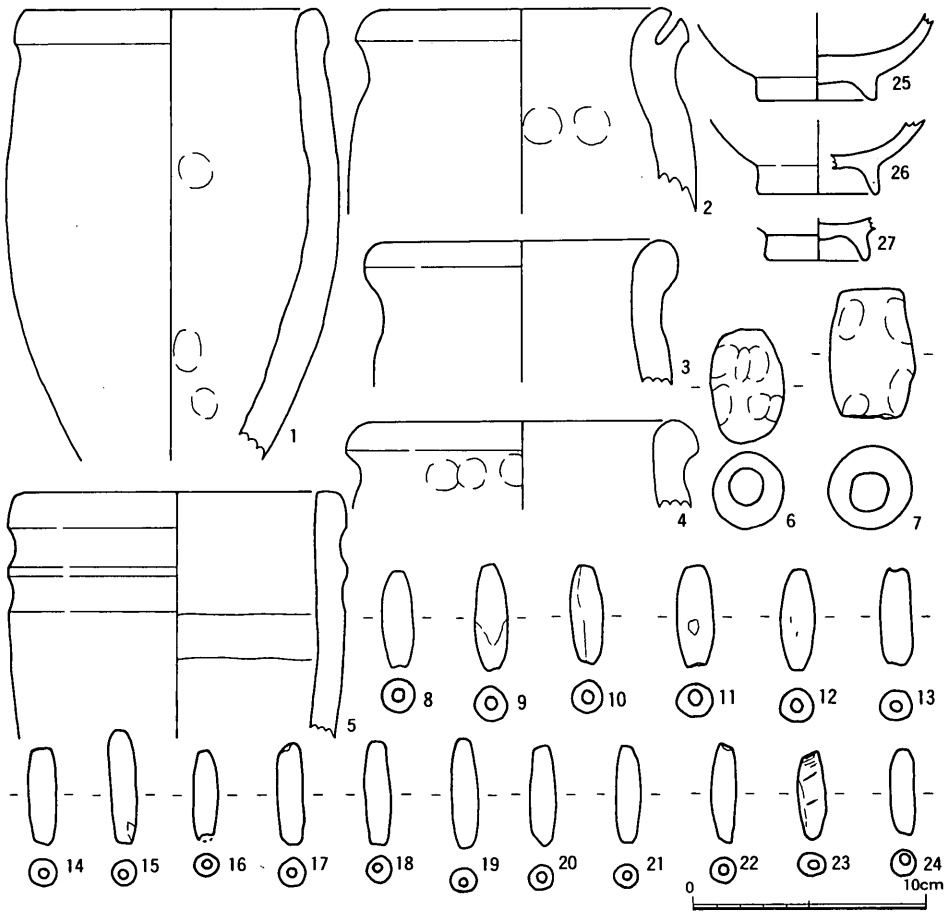
第２節　福島遺跡

福島遺跡は、1990年度の公共工事により、発見周知された遺跡である。阪南市の北端部、男里川の左岸に位置する。往年の調査では、遺構は検出されていないが、土師器、土師質土器、蛸壷、丸瓦、平瓦等の中世期の遺物が出土している。

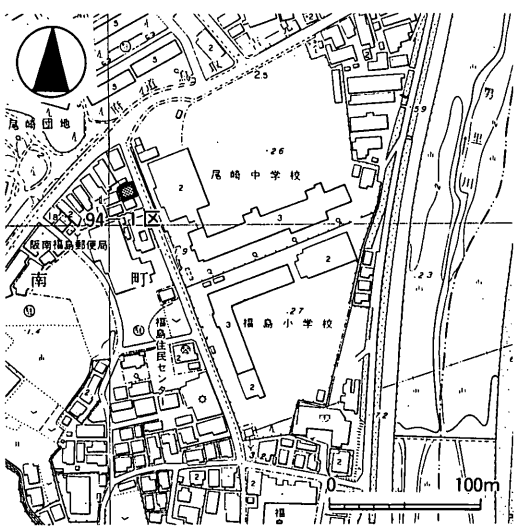
９４－２区

ａ．調査の概要

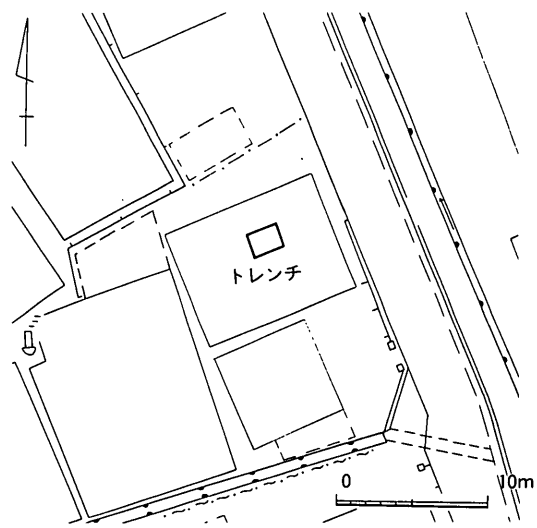
調査区は、本遺跡のほぼ中央に位置する。調査区内に２ｍ×１.５ｍのトレンチを設定し調査を実施した。現地表面より１.２ｍ掘削したが盛土であった。今回の工事による掘削は１.２ｍしか及ばなく、調査の途中で水が湧き出す等の理由で、地山を確認することなく調査を終了した。



第８図　尾崎海岸遺跡94－2区出土遺物



第９図　福島遺跡調査区位置図



第１０図　福島遺跡94-1区トレンチ位置図

第３節　馬川北遺跡

馬川北遺跡は1989年度の公共工事により発見周知された。この調査では縄文時代晩期から古墳時代の流路、古墳時代から近世期の溝等が検出された。その後、同遺跡での調査は行われておらず今年度に至る。94-1区では、包含層より古墳時代から近世期の遺物が出土した。今回の94-2区は94-1区に南接する。

９４－２区

ａ．調査の概要

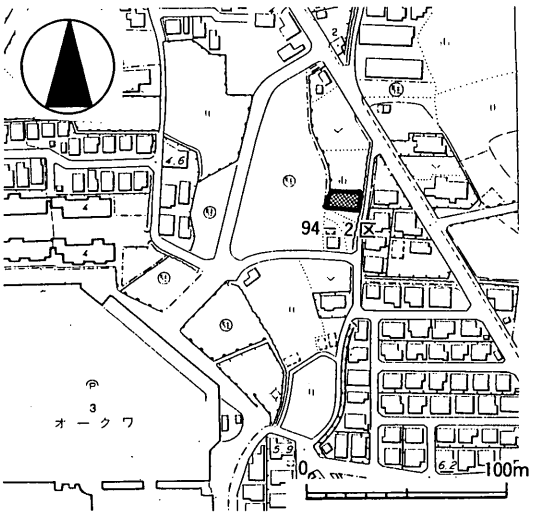
調査区は、本遺跡の中央部に位置する。調査は、調査区内に２.５ｍ×１.５ｍのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層近年の盛土、第２層耕作土、第３層淡灰黄色粘質土、第４層淡茶灰色粘質土、第５層淡黄灰色粘質土、第６層暗茶黒色粘質土、第７層明白黄色粘土(地山)であった。出土遺物は、第４層から須恵器、土師器、陶器、第５層から須恵器、土師器、瓦器、陶器、第６層から須恵器、土師器等が出土した。

ｂ．遺構

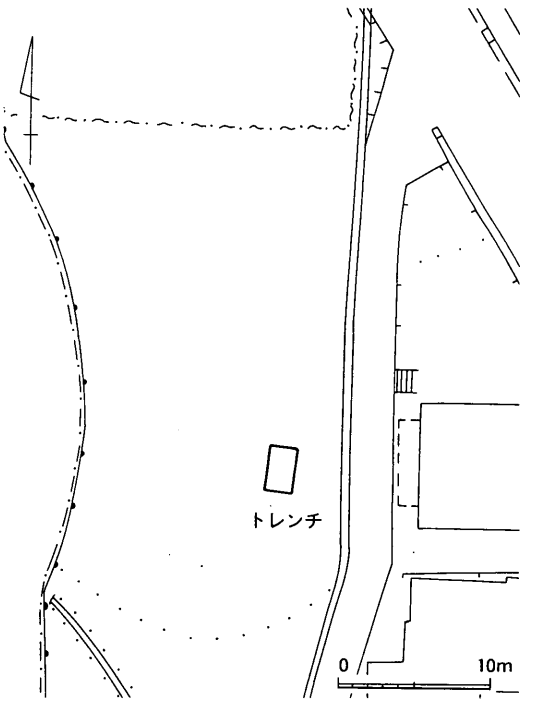
トレンチの南西角で土坑１を検出した。埋土は淡茶黒色粘土で須恵器を出土したが、器種等は不明である。

ｃ．遺物

１・２は第６層、３～５は第５層、６は第４層から出土した。１～３は須恵器の蓋坏でいずれも６世紀のものである。４・５は瓦器埦、６は土師質小皿である。



第１１図　馬川北遺跡調査区位置図



第１２図　馬川北遺跡94-2区トレンチ位置図

第４節　馬川遺跡

馬川遺跡は、市域の東端部を南北に流れる男里川が形成する扇状地に存在する。1987年に実施された分布調査により、弥生時代以降の遺跡の存在が想定されていた。これまで遺跡内において大規模な調査が実施された例はないが、個人住宅建築等に先立つ調査では、遺跡の東部分で石器や弥生時代から中世期の土器が、西部分で古代末期から中世期の瓦が確認されている。これ

らのことから、市内では数少ない弥生時代の遺跡のひとつとして周知されている。また古代末期にさかのぼる寺院が存在する可能性があることもこの遺跡の特徴としてあげられる。

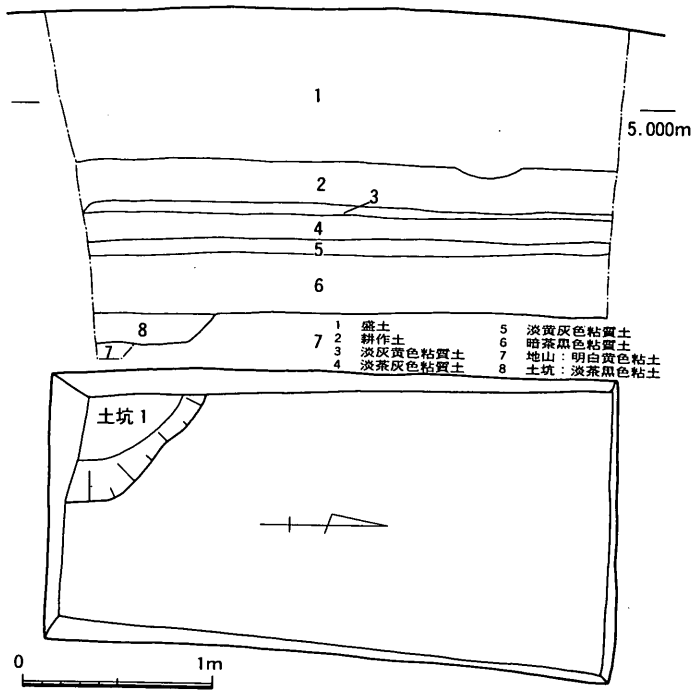
９３－５区

ａ．調査の概要

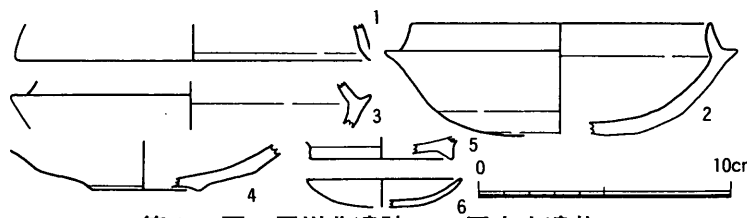
調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査区内に２ｍ× １.２ｍのトレンチを設定して調査を実施した。盛土以下の基本層序は、第２層耕作土、第３層床土、第４層淡茶色土、第５層灰茶色粘質土、第６層淡茶色礫混土、第７層淡黄茶色礫混粘質土(地山)であった。第５・６層から須恵器、土師質土器等が出土した。遺構は確認されなかった。

ｂ．遺物

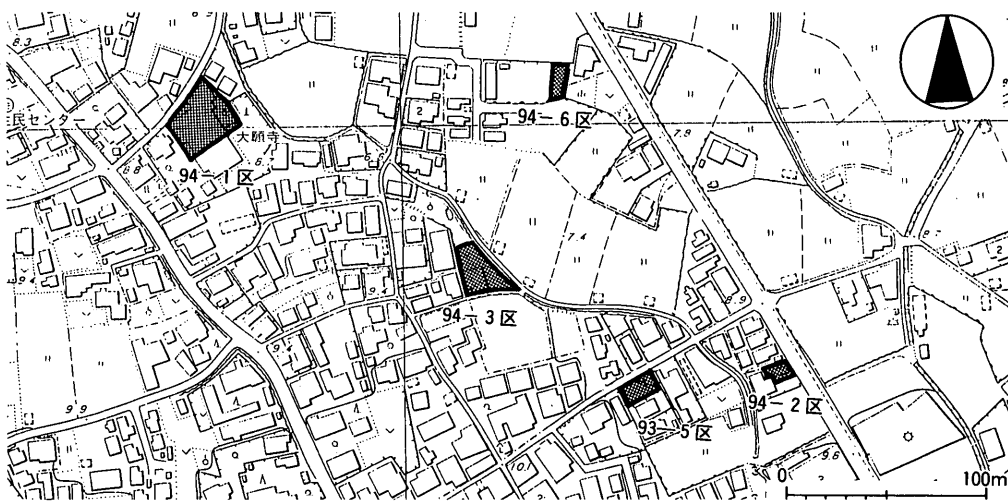
上述したように、各層から数十点の遺物が出土して



第１３図　馬川北遺跡94-2区平面図　西側断面図

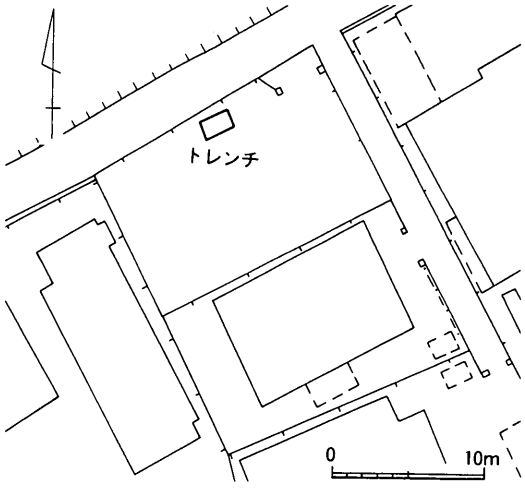


第１４図　馬川北遺跡94-2区出土遺物



第１５図　馬川遺跡調査区位置図

いるが、図示し得た遺物は、５点のみであった。１は土師質の埦、２は白土器の埦である。第３層から検出された。３～５は第２層から出土した。３・４は陶器の摺鉢口縁部で、４には１単位４本以上のすり目がみられる。５は染付の碗の口縁部で、二次焼成を受けている。

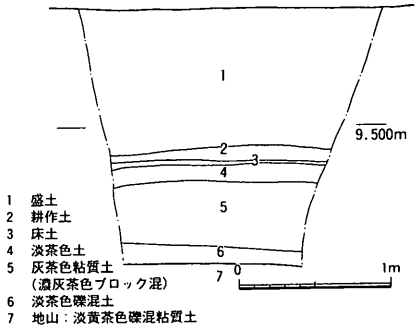


第１６図　馬川遺跡93-5区トレンチ位置図

９４－１区

ａ．調査の概要

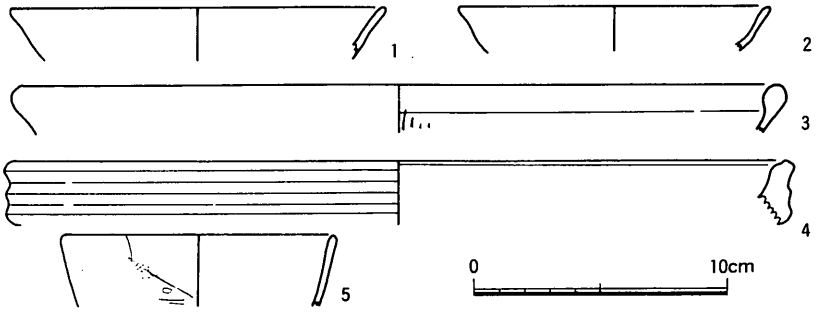
調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを２ヵ所設定して調査を実施した。基本層序は、第１層茶色礫混土、第２層暗茶色土、第４層明茶色礫混土(地山)であった。１トレンチでピット１を、２トレンチで溝１と思われる遺構を検出した。遺物としては、１トレンチ第１層から近世期の瓦、土師質(湊焼)の甕、蛸壷、磁器等が出土している。２トレンチでは、１トレンチとほぼ同様のものに加え、墓石が出土している。



第１７図　馬川遺跡93-5区北側断面図

ｂ．遺構

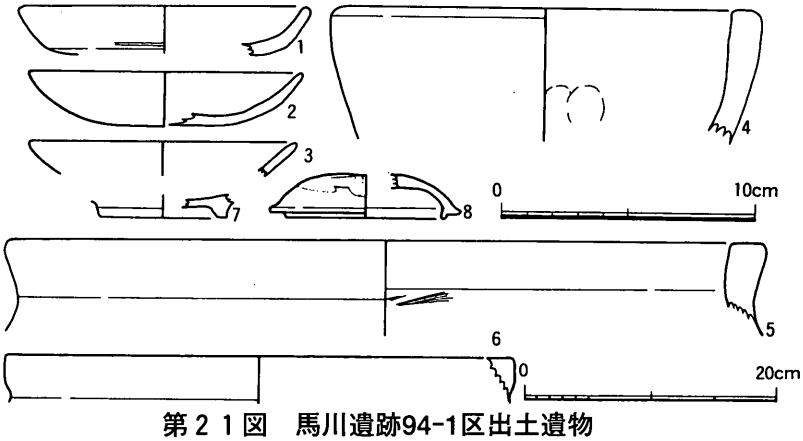
１トレンチのほぼ中央部、第２層上面で径０.３ｍ程度のピット１を検出した。また、２トレンチでは、第４層上面で南北方向に延びる幅０.２５ｍ以上の溝１と思われる遺構を検出した。



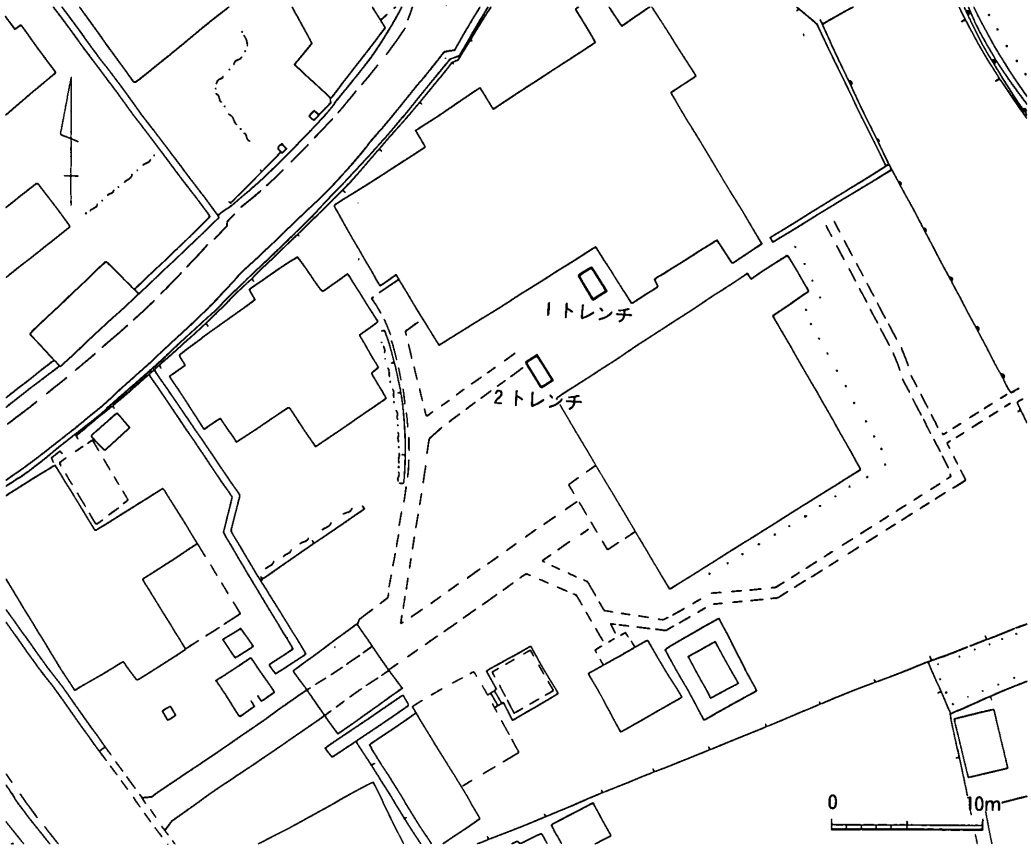
第１８図　馬川遺跡93-5区出土遺物

ｃ．遺物

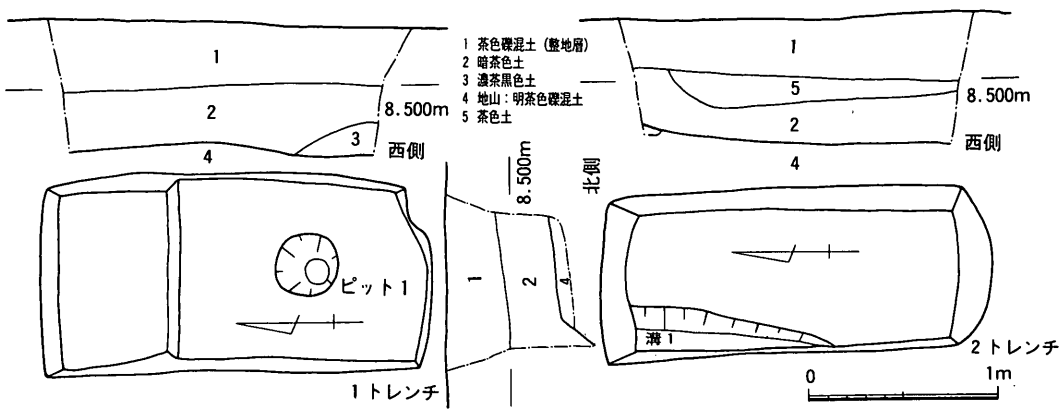
１・２はいずれも土師質の皿で、２は施釉されている。３は白土器の埦である。４は土師質の火舎、５・６は湊焼の甕の口縁部、７は瓦器埦の高台部である。８は染付の合子の



第２１図　馬川遺跡94-1区出土遺物



第１９図　馬川遺跡94-1区トレンチ位置図



第２０図　馬川遺跡94-1区　1・2トレンチ平面図・断面図

蓋と思われる。１・２・４・６・７は２トレンチ第２層から、３・５・８は１トレンチ第１層から検出された。

９４－２区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の南部に位置する。調査区内に１.８m×１mのトレンチを設定、調査を実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層暗灰青色シルト、第４層青

黄灰色シルト、第５層灰色シルト、第６層黄灰色粘土(マンガン粒混)の地山であった。遺構は検出されず、遺物は第２・３層、第４・５層から土師器、瓦器を出土した。

ｂ．遺物

１は、第４・５層で出土した瓦器椀の口縁部である。

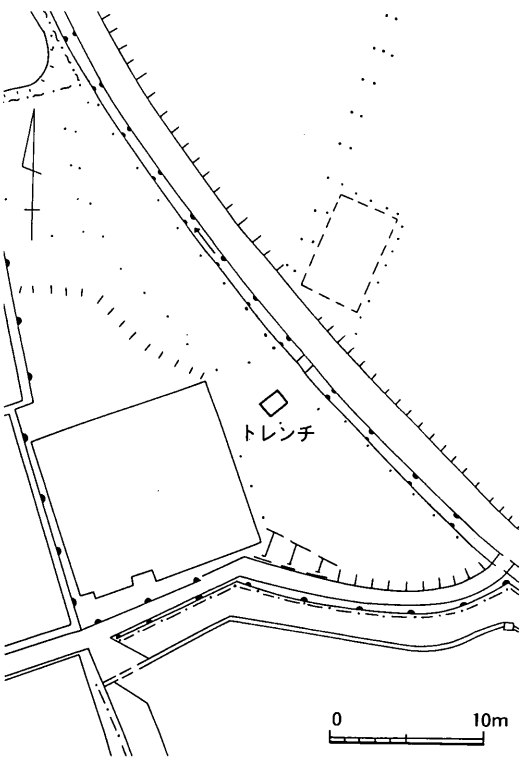
９４－３区

ａ．調査の概要

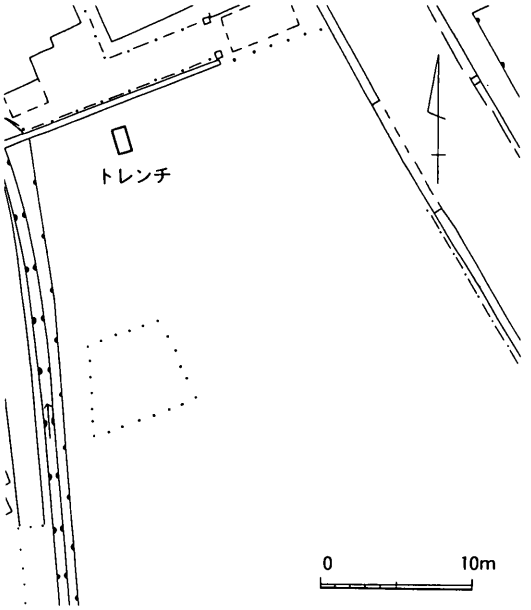
調査区は、本遺跡の南部に位置する。調査区内に１ｍ×１.５ｍのトレンチを設定して調査を実施した。盛土、耕作土以下の基本層序は、第３層茶灰色礫混砂質土、第４層灰色シルト、第５層暗茶黒色土の順であった。遺構として溝１を、遺物として耕作土以下の各層からサヌカイト、須恵器、土師器、瓦等を確認した。

ｂ．遺構

第５層上面で南北方向に延びる溝１を検出した。幅０.２ｍ以上、深さ０.０５ｍ以上をは

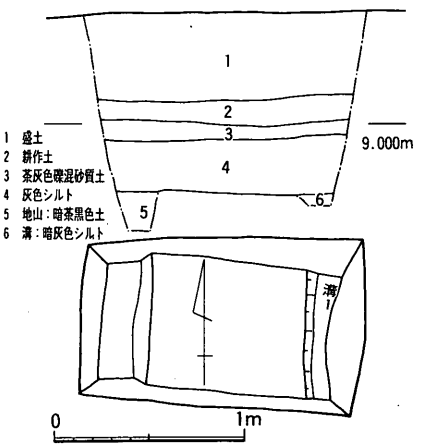


第２４図　馬川遺跡94-3区トレンチ位置図

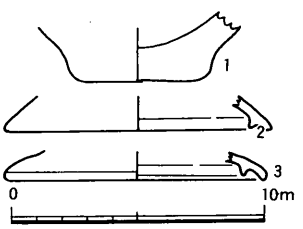


第２２図　馬川遺跡94-2区トレンチ位置図

第２３図　馬川遺跡94-2区出土遺物



第２５図　馬川遺跡94-3区平面図・北側断面図



第２６図　馬川遺跡94-3区出土遺物

かる。埋土中より土師器が出土している。

c．遺物

上述した遺物のうち下記の３点を図示した。１は弥生式土器で、在地産の第Ｖ様式のものと思われる。第３層から出土した。２・３はともに須恵器の坏蓋である。２は第４層からの出土である。

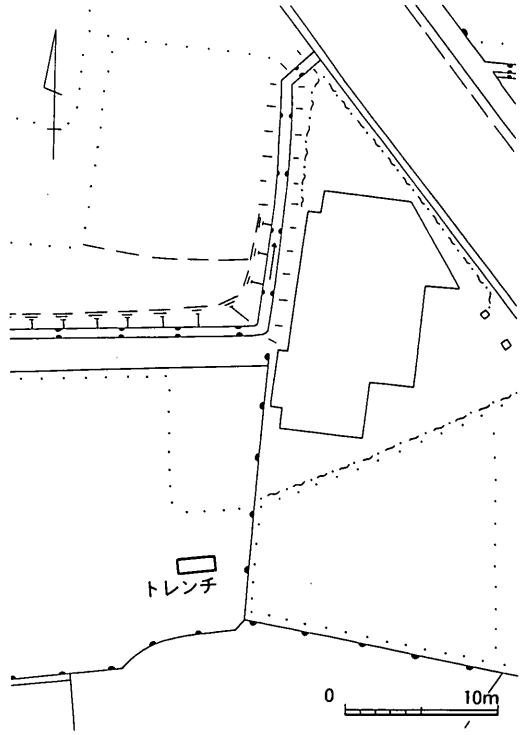
９４－６区

a．調査の概要

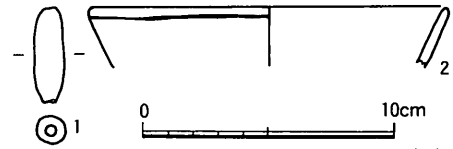
調査は、調査区内に２.５m×１mのトレンチを設定し実施した。調査区の地盤がゆるく、現地表面より１.６mまで掘削したところで調査に支障をきたすと判断したため、その地点で地山を確認することなく調査を中止した。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡灰色粘質土、第４層淡褐灰色粘質土、第５層暗黒茶色土であった。遺構は検出されず、以下の遺物が出土した。

b．遺物

１は土師質管状土錘で、２は青磁碗の口縁部である。いずれも第３層から出土した。



第２７図　馬川遺跡94-6区トレンチ位置図



第２８図　馬川遺跡94-6区出土遺物

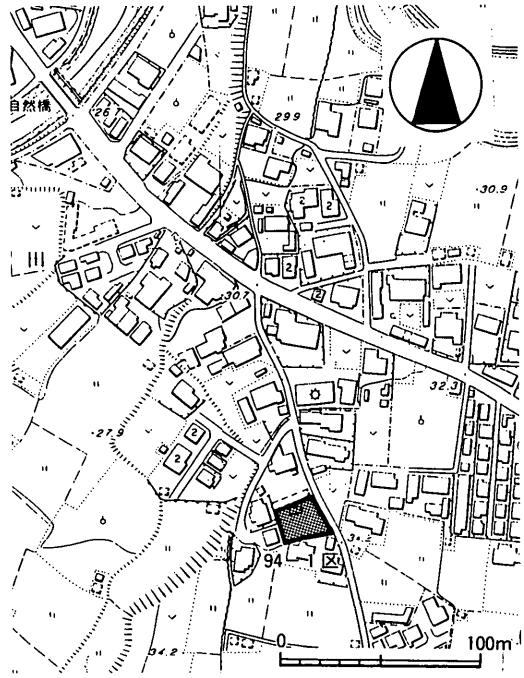
第５節　自然田遺跡

自然田遺跡は1986年に民間開発に先立つ事前調査によって確認された。南部は大阪府指定史跡玉田山古墳群(後期)に接する。過去の調査では、サヌカイトのナイフ型石器、中世期の溝、流路等が発見されている。

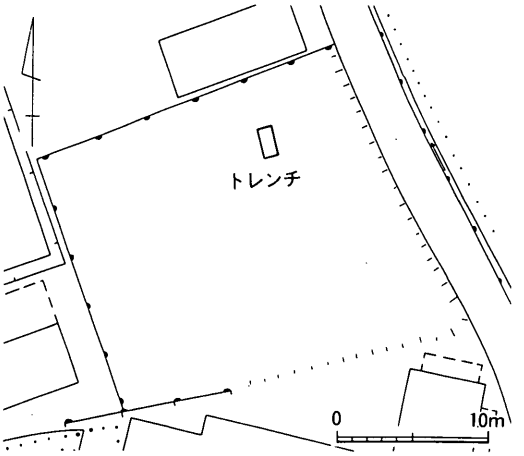
９４－１区

a．調査の概要

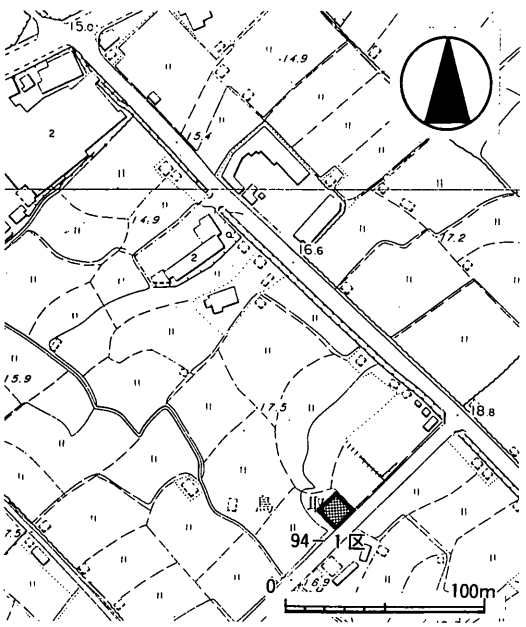
調査は、調査区内に２m×１mのトレンチを設定して実施した。基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡黄色土、第４層淡橙黄色礫混土（地山)である。遺構、遺物は検出しなかった。



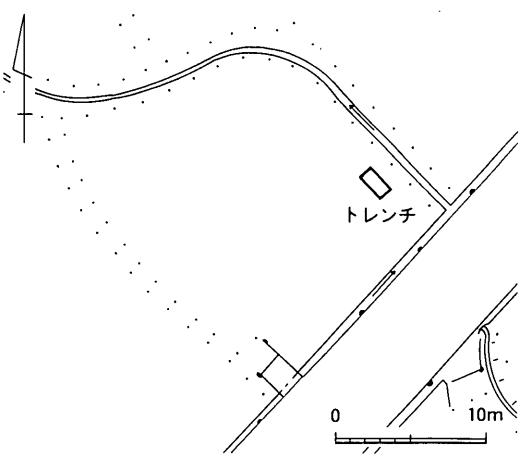
第２９図　自然田遺跡調査区位置図



第３０図 自然田遺跡９４-１区トレンチ位置図



第３１図 神光寺（蓮池）遺跡調査区位置図



第３２図　神光寺（蓮池）遺跡94-1区
トレンチ位置図

第６節　神光寺(蓮池)遺跡

神光寺(蓮池)遺跡は、阪南市の中央部に位置する。1976年度に行われた(財)大阪文化財センターの鳥取地区埋蔵文化財分布調査によると縄文時代草創期の石器、弥生時代中期の土器・石器、古墳時代から中世期の土器が検出された。1982年度の発掘調査では弥生時代中期の方形周溝墓や中世期の耕作溝とそれに伴う遺物が出土した。また、遺跡の南東部に接して式内社波太神社が存在し、付近には、廃寺となった神光寺の存在が推定されるが、それを裏付ける顕著な史料は見つかっていない。

９４－１区

ａ．調査の概要

調査区は、神光寺(蓮池)遺跡の中央部に位置する。調査は、調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。基本層序は第１層耕作土、第２層淡灰黄色粘土(地山)である。遺構、遺物は検出しなかった。

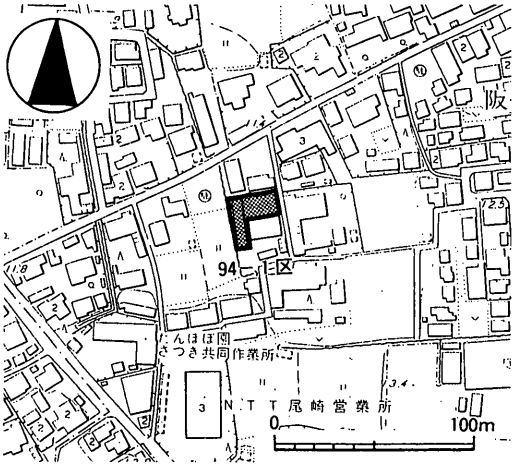
第７節　下出遺跡

下出遺跡は阪南市の北東部に位置し、近世期の下出村の村域とほぼ一致する。1991年度の民間開発工事に先立つ確認調査(91-1区)により発見周知された遺跡である。この調査では瓦器埦を埋納する土坑墓をはじめ、多数のピットが検出された。その後も小規模ながら十数件調査が行われ、阪南市域における中世期の重要な遺跡として知られている。

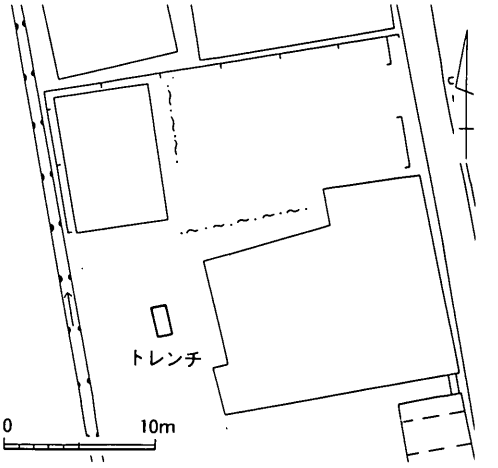
９４－１区

ａ．調査の概要

調査区は、本遺跡の北端部に位置する。調査は、調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを設定して行った。近年の盛土以下の基本層序は、第１層耕作土、第２層暗灰茶色土、第３層淡



第３３図　下出遺跡調査区位置図



第３４図　下出遺跡94-1区トレンチ位置図

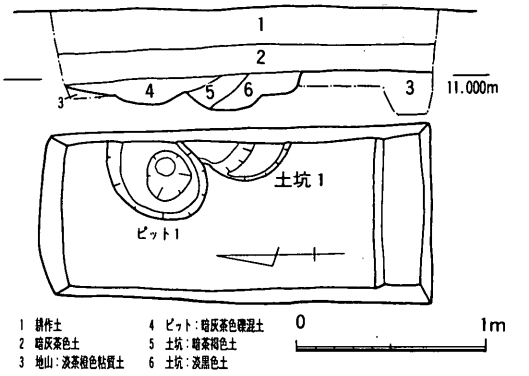
茶橙色粘質土であった。第３層は固くしまった無遺物層で地山と考えられる。遺物は第１層より近世平瓦、第２層より土師質土器、近世平瓦、磁器、煙管の一部などが出土した。

b．遺構

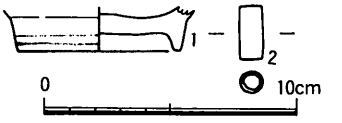
地山上面で土坑１、ピット１を検出したがどちらも遺物の出土がなく時代は不明である。

c．遺物

１は磁器碗、２は煙管の一部でいずれも第２層から出土した。



第３５図下出遺跡94-1区平面図・東側断面図



第３６図　下出遺跡94－1区出土遺物

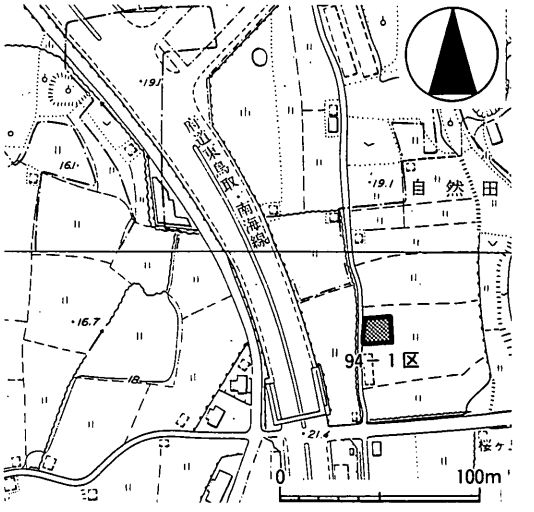
第８節　高田遺跡

高田遺跡は、1993年度に発見された。男里川の支流、莵砥川の氾濫原と、高田山古墳群を擁する丘陵部に挟まれた平野部に営まれた、南北約５００m、東西約１５０mの遺跡である。これまでの調査では縄文時代晩期から近世期の遺物が出土している。

９４－１区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は、調査区内の中央部に２m×１mのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層淡褐灰色粘質土、第４層灰色



第３７図　高田遺跡調査区位置図

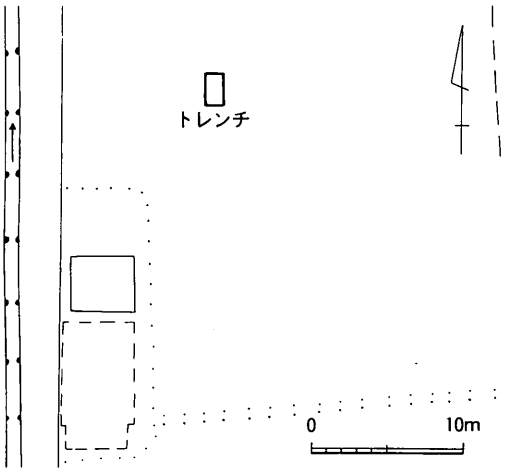
粘質土(淡灰橙色粘土混)、第５層淡灰橙色粘土の地山である。遺物は第１層より土師器、近世陶器、第３層より土師質土器、瓦器等が出土したが、遺構は検出しなかった。

ｂ．遺物

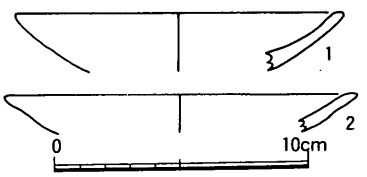
１・２は土師質埦で第３層から出土した。

第９節　高田南遺跡

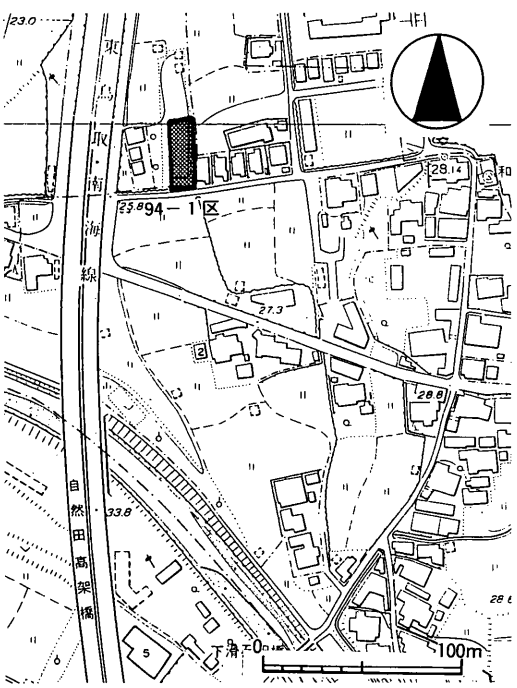
高田南遺跡は、1988年度の文化財分布調査によって発見周知された遺跡である。その分布調査では、須恵器、土師器、瓦器、瓦、陶磁器等が採取された。本遺跡においては、これまでに調査例はなく、今回がはじめての調査となった。また、94-1区に隣接する調査区(94-2区)では、遺構は検出されなかったが、須恵器、土師器等の遺物を検出した。



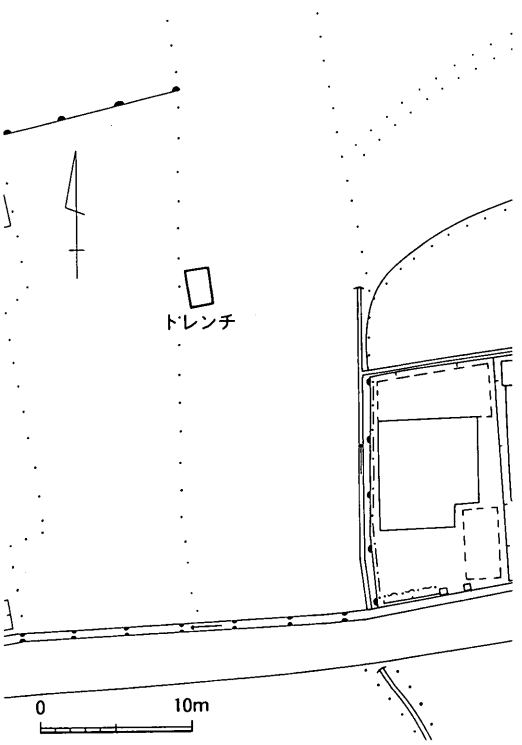
第３８図　高田遺跡94-1区トレンチ位置図



第３９図　高田遺跡94-1区出土遺物



第４０図　高田南遺跡調査区位置図

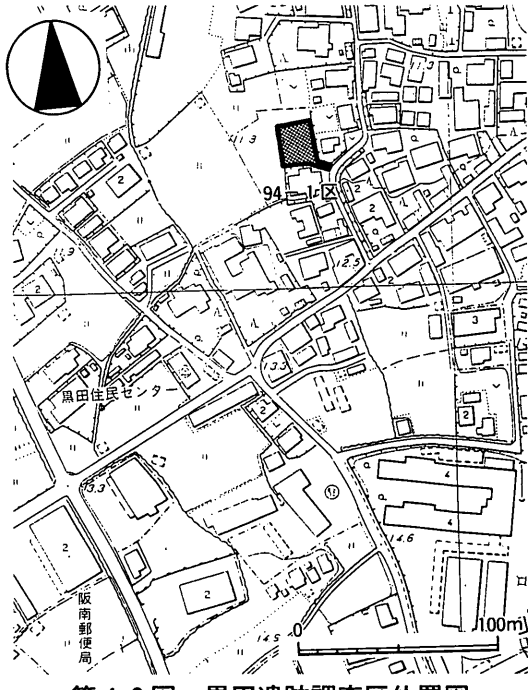


第４１図　高田南遺跡94-1区トレンチ位置図

９４－１区

ａ．調査の概要

調査区は、本遺跡の北部に位置する。調査は調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを設定し実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層褐灰色砂質土、第３層明黄灰色土、第４層暗黄灰色土の地山であった。遺構、遺物はともに検出されなかった。



第４２図　黒田遺跡調査区位置図

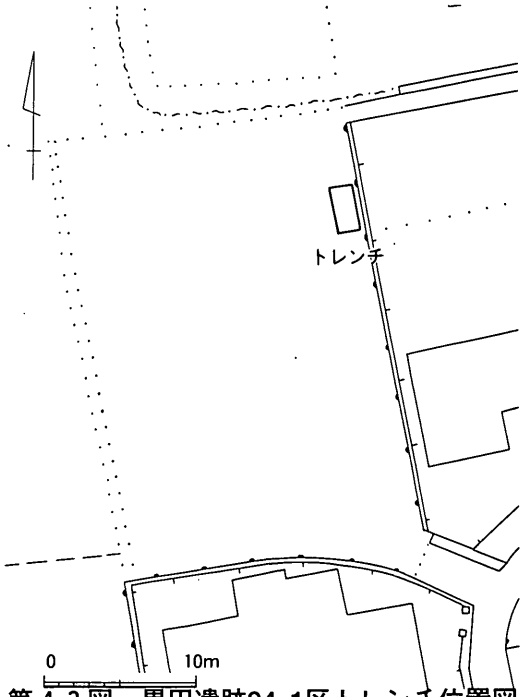
第10節　黒田遺跡

1992年に民間開発工事に先立つ確認調査により存在が確認された。この調査では、中世期を中心とする遺物、遺構が検出されている。この他、遺跡のほぼ中央部分で今年度行われた公共工事に伴う調査では、土坑、溝等の遺構やこれらの遺構に伴って奈良時代の土師器の皿、土師質の製塩土器、瓦器埦、土師質の蛸壺等が出土している。これらのことから、奈良時代及び中世期の生活跡の存在が想定されている。

９４－１区

ａ．調査の概要

本調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査は調査区内に３ｍ×１.５ｍのトレンチを設定して実施した。耕作土直下が黄茶色礫混土であり、これが地山と考えられる。耕作土中から近世期以降と思われる瓦を検出したが、図示し得なかった。



第４３図　黒田遺跡94-1区トレンチ位置図

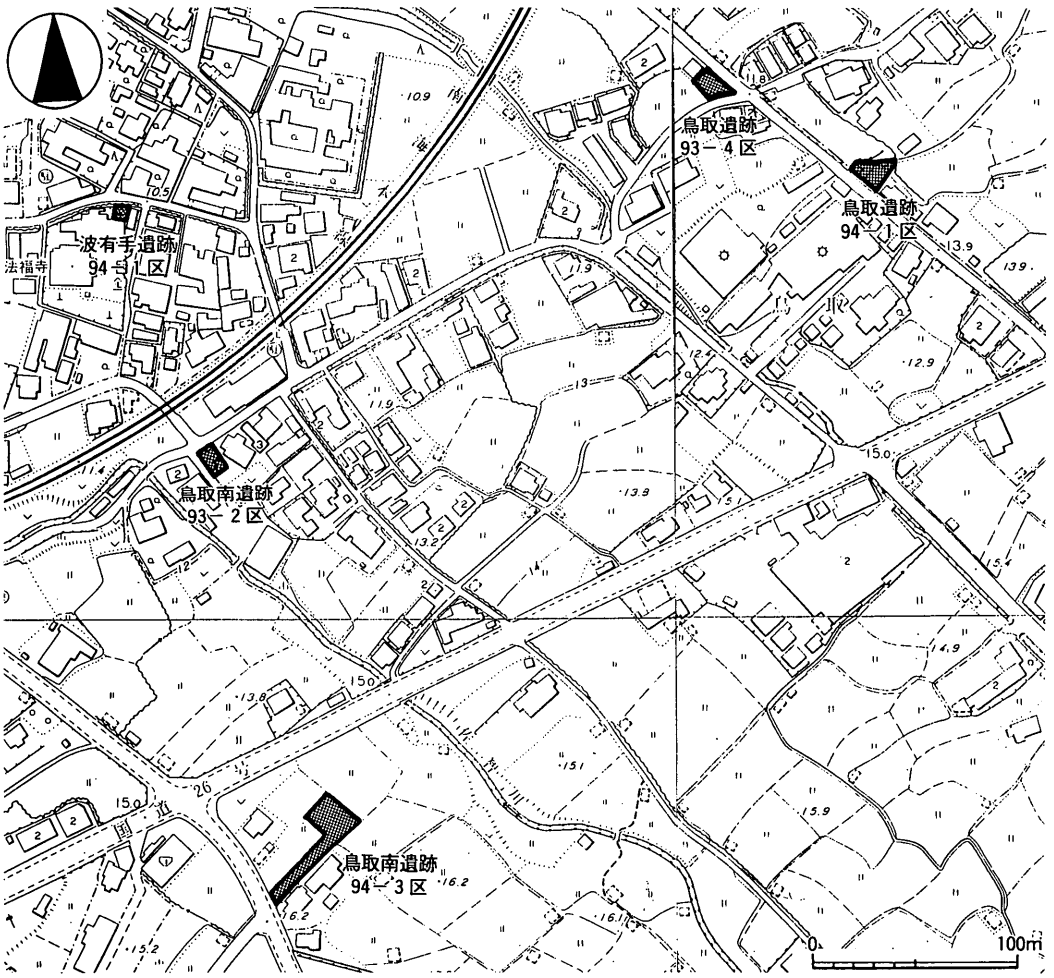
第11節　波有手遺跡

波有手遺跡は1992年度阪南市立西鳥取公民館建設に伴う遺跡確認調査によって発見された遺跡である。この調査では、奈良時代と中世期、近世期の遺構面と数千点にも及ぶ奈良時代の遺物が検出された。中でも「海」３２点、「水」２点、「省」１点、「佐土」１点、不明１点の墨書土器の出土が特筆される。

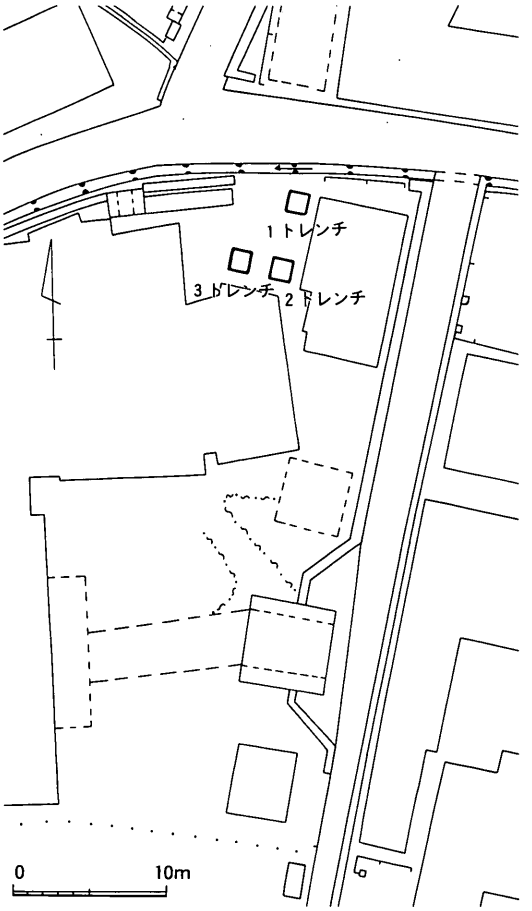
９４－１区

ａ．調査の概要

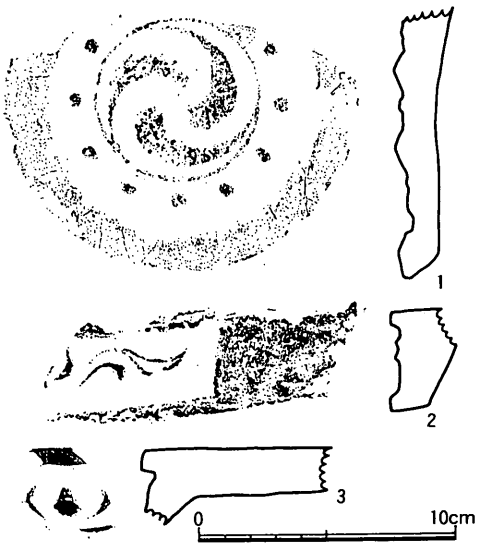
調査区は本遺跡の北端部に位置し、奈良時代の遺構や同時代の墨書土器等が多数確認されている92-1区に隣接している。調査は調査区内に１.５ｍ×１.５ｍのトレンチを３ヵ所設定して行った。近年の整地層以下の基本層序は、第１層茶色砂質土、第２層濃茶黒色土、第３層明茶灰色礫混土の順であった。瓦が多く出土しているのをはじめ、須恵器、陶磁器、銭貨、墓石等が検出された。



第４４図　波有手遺跡・鳥取遺跡・鳥取南遺跡調査区位置図



第45図 波有手遺跡94－1区トレンチ位置図



第46図　波有手遺跡94－1区出土遺物

b．遺物

上述したように多くの瓦が確認されているが、図化したのは軒丸瓦、軒平瓦に限定した。1は巴文軒丸瓦、2・3は均整唐草文軒平瓦で、すべて近世期のものと考えられる。1・2は1トレンチの第2層から、3は3トレンチから出土した。この他、上述した銭貨としては「寛永通宝」が、墓石としてはその形式から近世初期と思われるものが出土した。

第12節　鳥取遺跡

鳥取遺跡は、市域の東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。1989年度に実施された分布調査により発見周知された。黒田南遺跡、鳥取北遺跡および弥生時代の遺跡として知られている鳥取南遺跡に囲まれた場所に位置している。これまで同遺跡内での調査では、ピット等とともに土師器、瓦質土器等が検出されている。

93－4区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の中央部に位置する。調査区内に2.3m×1.3mのトレンチを設定して調査を実施した。盛土、耕作土以下の基本層序は、第3層灰褐色砂質土、第4層灰茶色土、第5層明灰茶色土、第6層黄灰色粘質土、第7層明茶灰色粘質土、第8層暗茶色粘土(地山)であった。遺構として、溝1を確認した。また、遺物として弥生式土器、土師器、須恵器、黒色土器、蛸壺、土師質土器等が検出されている。下記に示すように、出土遺物の状況より第4層から第6層は中世期、第7層は中世期以前の包含層と考えられる。

b．遺構

第7層上面で東西方向の溝1を確認した。埋土内から弥生式土器、土師器、須恵

器、黒色土器、瓦器等が出土している。これらのことから中世期の溝と考えられる。

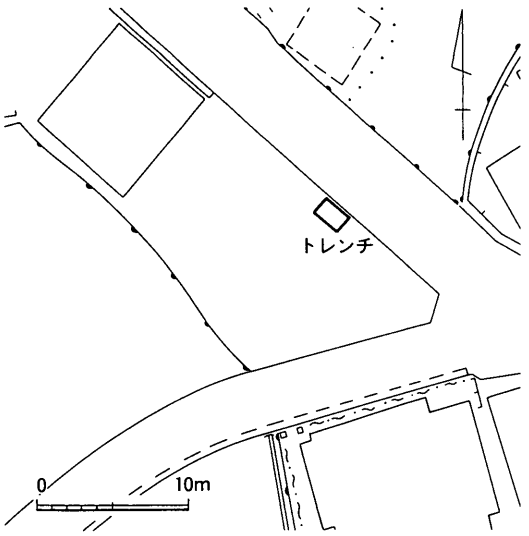
c．遺物

遺構から出土した遺物の他、第４・５層から土師質蛸壺等が、第６層から土師質土器等が、第７層から弥生式土器、須恵器等が検出されている。図示した遺物は、次の通りである。５は溝の埋土から検出された。この他は、包含層からの出土である。１・２はともに須恵器の坏身、３は須恵質の鉢、４・５は瓦器埦、６は染付の碗である。

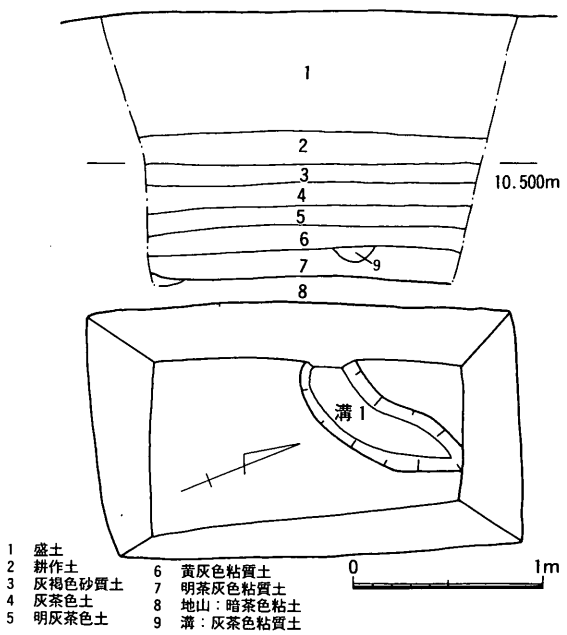
９４－１区

a．調査の概要

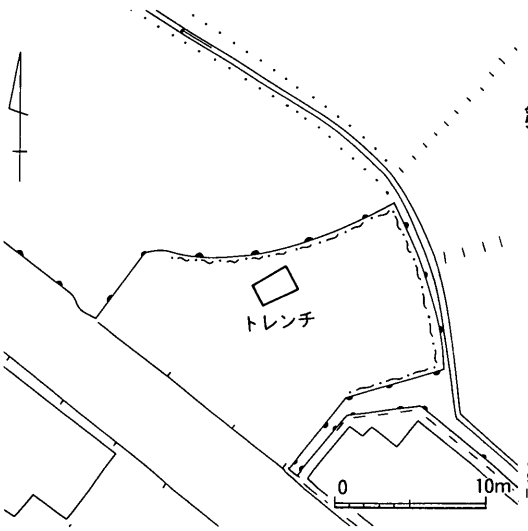
調査区は、鳥取遺跡の中央部に位置する。調査区内に２.６m×１.７mのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡茶黄色土、第４層淡緑灰色シルト、第５層灰色シルト、第６層淡黄灰色シルト、第７層暗茶灰色土、第８層明黄灰色砂質土、第９層黄灰色砂質土（風化礫混）、第１０層橙灰色砂質土（風化礫混）の地山であった。遺物は第３・４層から土師器、須恵器、瓦器、土師質蛸壷、第５・６層と第８層からは土師器を出土した。遺構は検出されなかった。



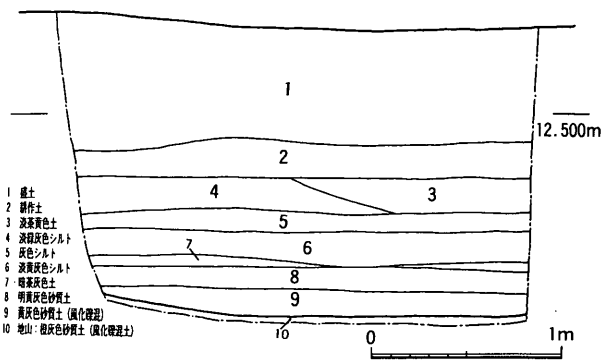
第４７図　鳥取遺跡93－4区トレンチ位置図



第４８図　鳥取遺跡93－4区平面図・西側断面図



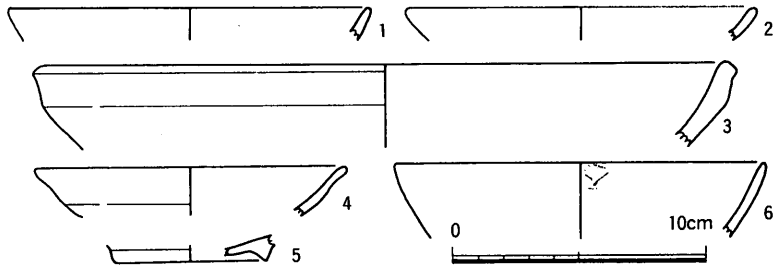
第５０図 鳥取遺跡94－1区トレンチ位置図



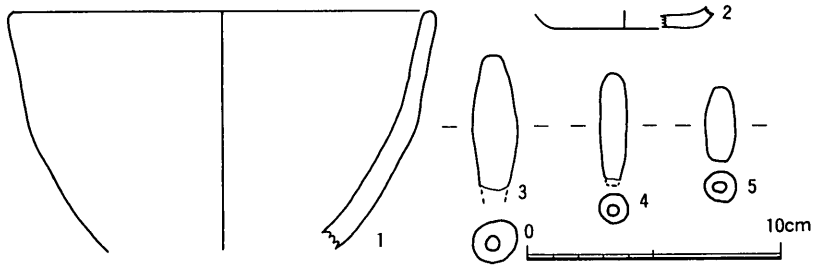
第５１図　鳥取遺跡94－1区南側断面図

b．遺物

1は弥生式土器の鉢の口縁部、2は土師質小皿の底部で糸切痕がみられた。3～5は土師質管状土錘であった。1は第9層、2・3は第3・4層、4・5は第2層から出土した。



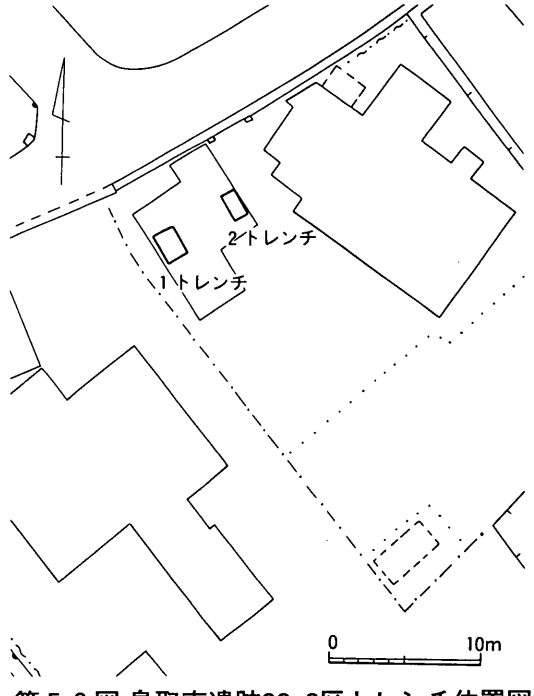
第49図　鳥取遺跡93－4区出土遺物



第52図　鳥取遺跡94-1区出土遺物

第13節　鳥取南遺跡

鳥取南遺跡は、1988年に実施された分布調査により発見周知された。既往の調査では、遺跡東端部において弥生時代後期の土坑をはじめとする遺構、遺物等が確認されている。また、1992年に行われた遺跡の中央部における調査では、一業者の圧力により調査途中での打切りを余儀なくさせられるという異常な事態を引き起こした。この1次調査段階で、ピット、土坑、古墳時代から中世の遺物が確認されていた。この遺構の時代等詳細については、調査中断という考えられない事態が起こったため明らかではない。しかし、この調査区周辺を中心に弥生時代から中世期の生活跡の存在は間違いないと思われる。

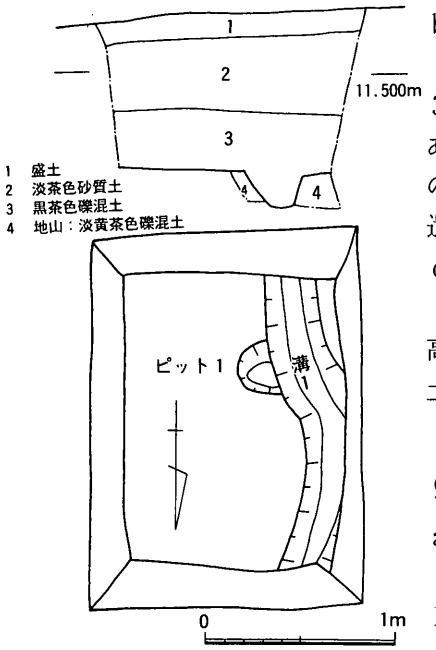


第53図 鳥取南遺跡93-2区トレンチ位置図

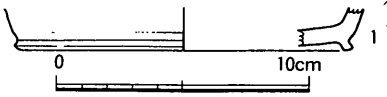
93－2区

a．調査の概要

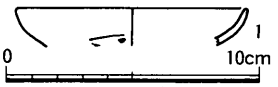
調査区は、鳥取南遺跡の南端部に位置する。調査区内に2.3m×1.5mのトレンチを2ヵ所設定し、調査を実施した。盛土以下の基本層序は、第2層淡茶色砂質土、第3層黒茶色礫混土、第4層淡黄茶色礫混土(地山)であった。1トレンチで、溝1、ピット1を検出した。第2・3層から、須恵器、土師器、瓦器等が出土した。



第５４図　鳥取南遺跡93-2区
1トレンチ平面図・南側断面図



第５５図 鳥取南遺跡93-2区出土遺物



第５７図 鳥取南遺跡94-3区出土遺物

b．遺構

１トレンチで南北方向に流れる溝１を検出した。幅０．３m、検出面からの深さ０．２mをはかる。埋土は第３層であった。また、この溝に切られるピット１を確認した。このピット１は、径０．３m、深さ０．８mを呈する。いずれの遺構からも遺物は出土していない。

c．遺物

図示し得た遺物は１点のみであった。１は須恵器の坏身高台部である。この他、各トレンチから須恵器、土師器、土師質管状土錘、瓦器等が出土している。

９４－３区

a．調査の概要

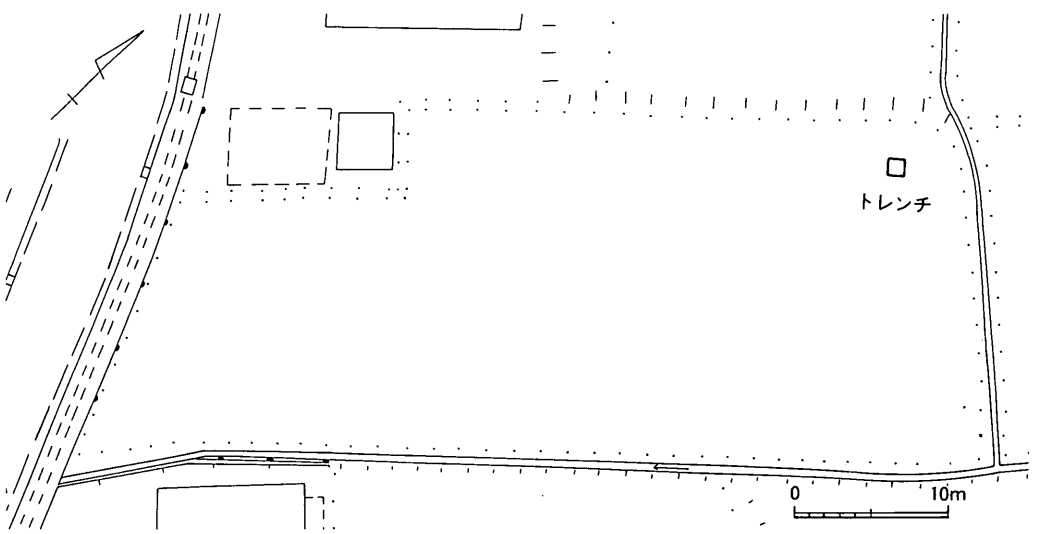
調査区は、本遺跡の西部に位置する。調査は調査区内に１m×１mのトレンチを設定して実施した。基本層序は第１層耕作土、第２層淡灰黄色砂質土、第３層淡褐黄色粘土の地山である。第１層から土師器、磁器、第２層より須恵器、土師器が出土した。遺構は検出されなかった。

1b．遺物

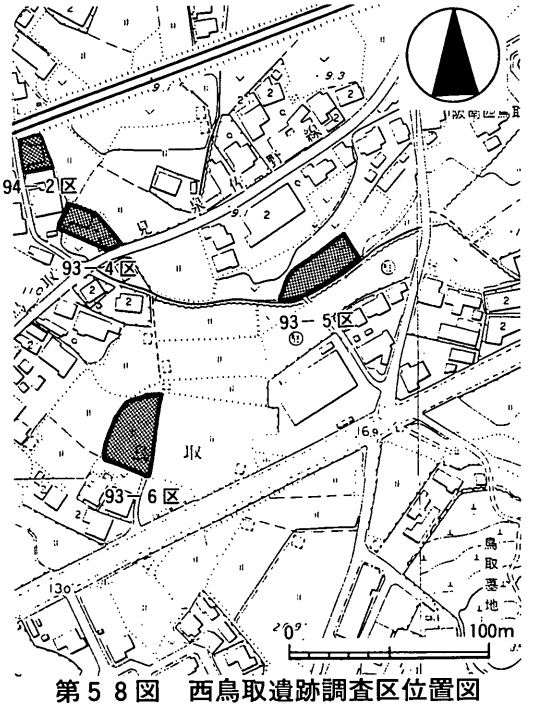
１は色絵小皿の口縁部である。

第14節　西鳥取遺跡

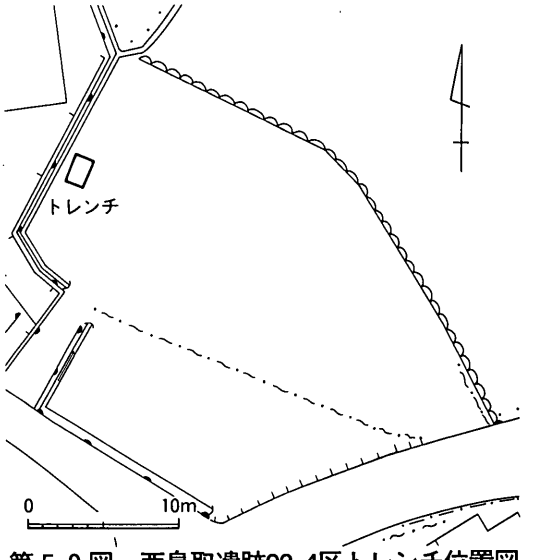
西鳥取遺跡は、市域の東西に拡がる平野部のほぼ中央部に位置する。1988年度に実施された文化財分布調査によって周知され、それ以来、数例の調査が行われている。



第５６図　鳥取南遺跡94-3区トレンチ位置図



第５８図　西鳥取遺跡調査区位置図



第５９図　西鳥取遺跡93-4区トレンチ位置図

1991年度の調査(91-1区)では、流路の可能性が考えられる遺構が検出され、遺物は、流路と考えられる層から須恵器、土師器、瓦器等が出土している。

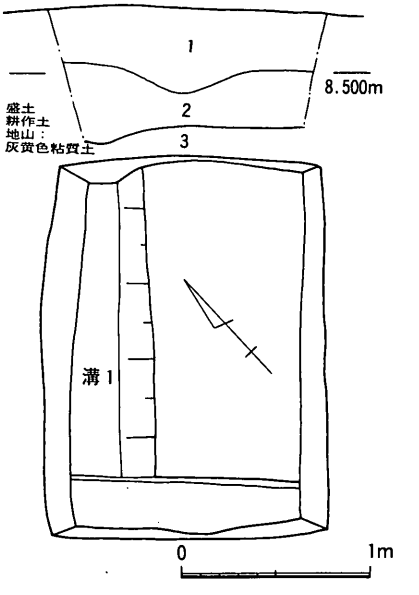
９３－４区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の西端部に位置する。調査区内に２m×１.４mのトレンチを設定して調査を実施した。盛土以下の基本層序は、第２層耕作土、第３層灰黄色粘質土(地山)であった。遺構として溝１を確認した。遺物では耕作土から須恵器、土師質土器、土師質管状土錘等が出土した。

b．遺構

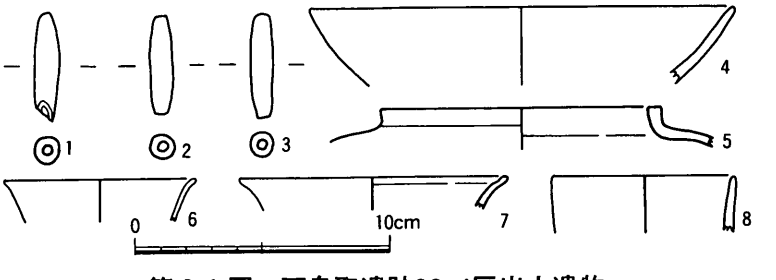
第２層上面で東西方向の溝１を確認した。埋土が耕作土であり、近代期以降の耕作に伴うものであると思われる。



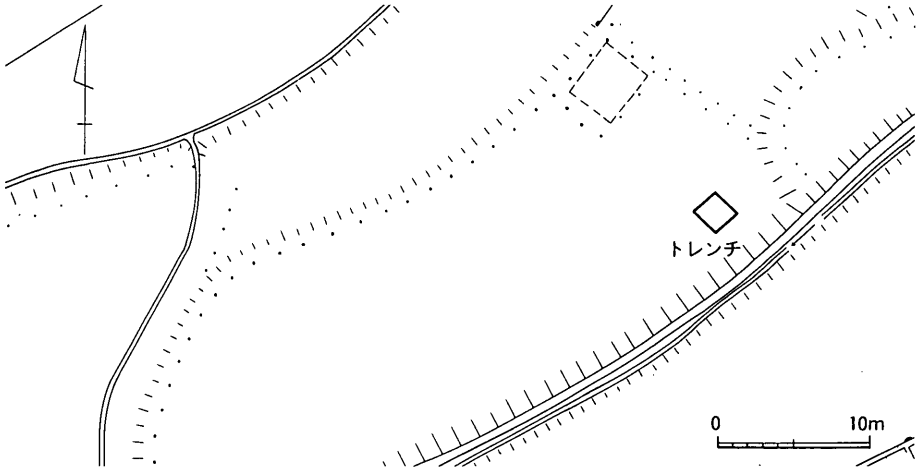
第６０図　西鳥取遺跡93-4区平面図・東側断面図

c．遺物

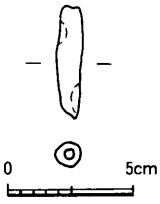
１～３は土師質の管状土錘。５・７は陶器で、それぞれ壺・碗であろう。４・６・８は磁器で、４は鉢、６は碗、８は蕎麦猪口あるいは湯飲みの類と思われる。



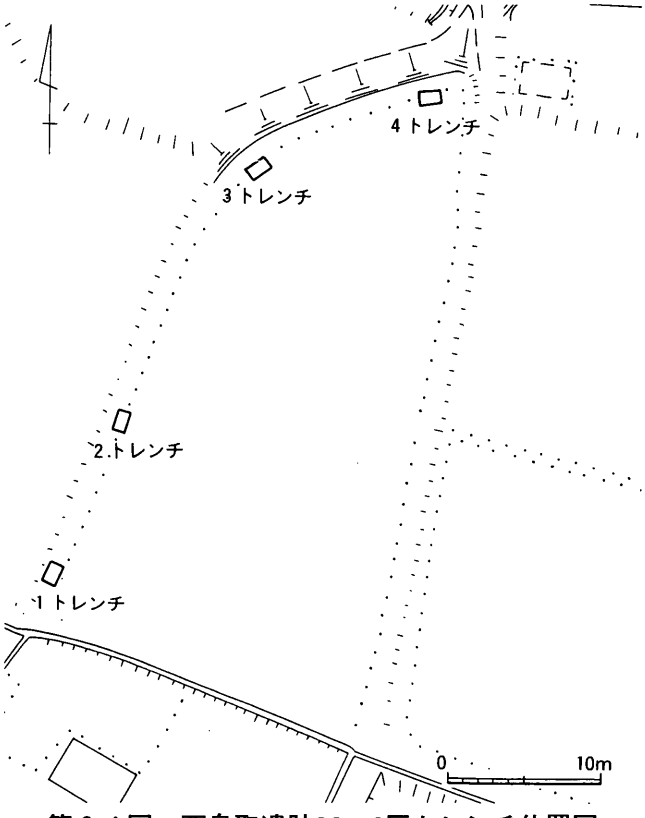
第６１図　西鳥取遺跡93-4区出土遺物



第６２図　西鳥取遺跡93-5区トレンチ位置図



第６３図
西鳥取遺
跡93-5区
出土遺物



第６４図　西鳥取遺跡93－6区トレンチ位置図

９３－５区

a．調査の概要

調査区は本遺跡の中央部に位置する。調査区内に２m×２mのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層濃灰黒色シルト、第３層淡青灰色粘土であった。

第２・３層は沼の覆土と思われる。第２層は植物遺体が含まれる。遺物は第２層から土師質管状土錘が１点出土した。

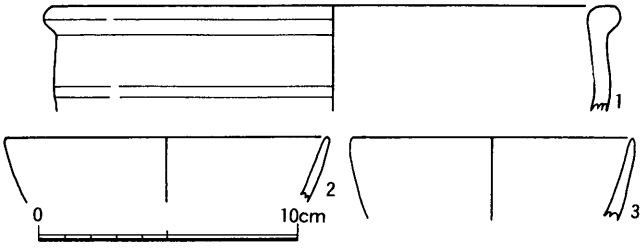
９３－６区

a．調査の概要

調査区は、本遺跡の南端部に位置する。調査区内に１m× １.５mのトレンチを４ヵ所設定して調査を実施した。盛土以下の基本層序は、第１層明褐色土、第２層明灰黄色砂混土、第３層明黄褐色粘質土（地山）であった。遺物は、瓦、土師質土器、陶磁器等が出土している。

b．遺構

３トレンチで溝１、ピット１を検出した。遺構からの遺物は検出

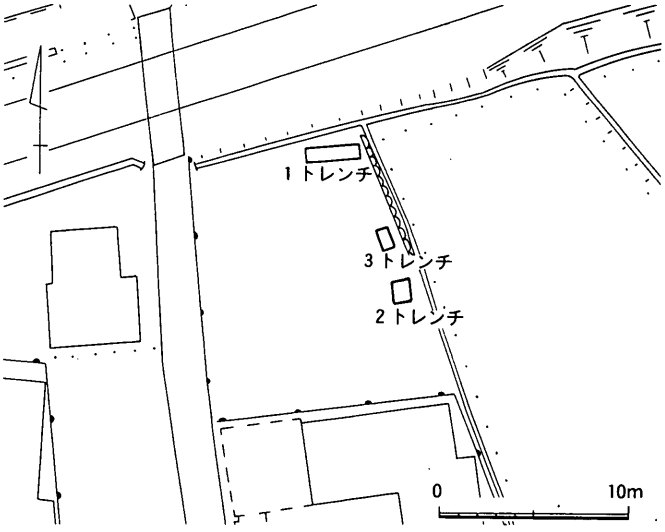


第６５図　西鳥取遺跡93-6区出土遺物

されておらず、明確な時期は不明である。

c．遺物

1は陶器の甕、2は瀬戸美濃焼の碗と思われる。3は染付の碗である。いずれも4トレンチから出土した。

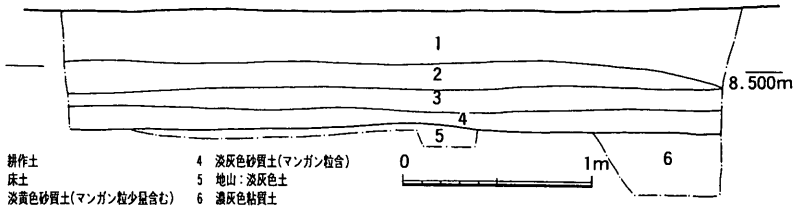


第66図　西鳥取遺跡94-2区トレンチ位置図

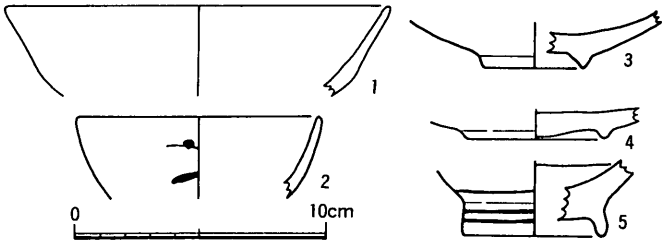
94－2区

a．調査の概要

調査区の北部に1トレンチ、東部に2・3トレンチを設定し、調査を実施した。基本層序をトレンチ毎に揚げると、1トレンチは第1層耕作土、第2層床土、第3層淡黄色砂質土、第4層淡灰色砂質土、第5層淡灰色土の地山。2トレンチは第1層耕作土、第2層床土、第3層暗灰色砂質土、第4層濃灰色粘質土、第5層明黄灰色粘土の地山。3トレンチは第1層耕作土、第2層灰色土、第3層濃灰色粘質土、第4層明黄灰色粘土の地山であった。遺構は検出されず、遺物は、1トレンチの第3層から須恵器、磁器等、2トレンチの第3層と3トレンチの第3層から磁器等が出土した。



第67図　西鳥取遺跡94-2区1トレンチ北側断面図



第68図　西鳥取遺跡94-2区出土遺物

b．遺物

1は須恵器の坏身の口縁部、2・3・5は染付の碗で2は口縁部、3・5は高台部、4は皿の高台部で、1は1トレンチの第4層、2～4は2トレンチの第3層、5は3トレンチの第3層から出土した。

第15節　飯ノ峯畑遺跡

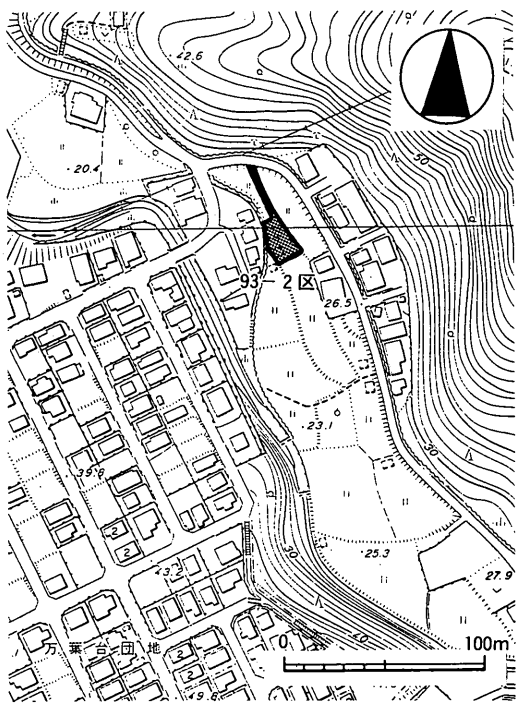
飯ノ峯畑遺跡は、茶屋川水系飯ノ峯川が形成した谷に拡がる遺跡である。関西空港建設工事に伴い、1985年度に(財)大阪府埋蔵文化財協会により実施された分布調査により周知された。同協会によるこれまでの調査では、文献で近世末期に洪水で流された事が知られ

ていた集落跡が確認された。この集落は、やはり同協会により調査が行われた箱作ミノバ石切場跡をその操業の場としていた石工の生活の場として捉えられている。また、市教育委員会が1993年に実施した発掘調査では、近世期以降のものと思われる瓦組みの暗渠が確認されている。

９３－２区

ａ．調査の概要

調査区は本遺跡の北部に位置する。調査は調査区内の西端に２ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第１層盛土(約１ｍ)、第２層淡黄灰色粘土(地山)であった。遺物は第１層より製塩土器、焼土塊が各１点出土した。遺構検出されなかった。



第６９図　飯ノ峯遺跡調査区位置図

第16節　田山遺跡

田山遺跡は、市域北西部の平野部から海岸部に拡がる遺跡である。1982年度、(財)大阪文化財センターの調査によると、奈良時代の集落跡、中世期の蛸壷焼成遺構や輸入陶磁器が検出されている。昨年行われた市の調査(93-2区)でも奈良時代の掘建柱建物２棟、溝や中世の土坑などが検出された。

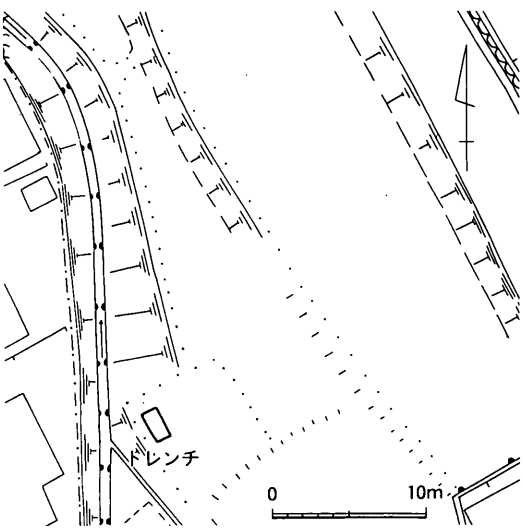
９４－１区

ａ．調査の概要

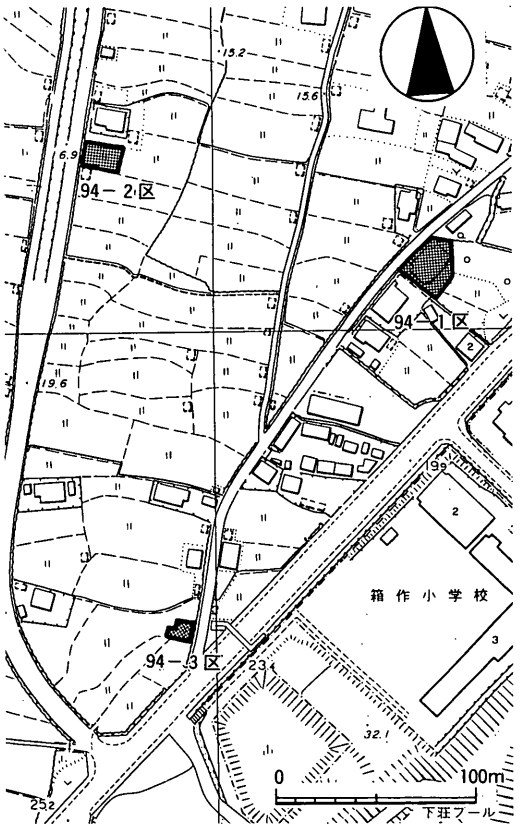
調査区は本遺跡の東端に位置し、調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層灰色砂質土、第４層黄灰色砂混、第５層明褐黄色砂混粘質土、第６層淡黄茶色礫混土(地山)の順であった。第１層より土師器、第３層から土師器、蛸壷を出土したが、土師器は全て細片のため器種、時代は不明である。遺構は検出されなかった。

ｂ．遺物

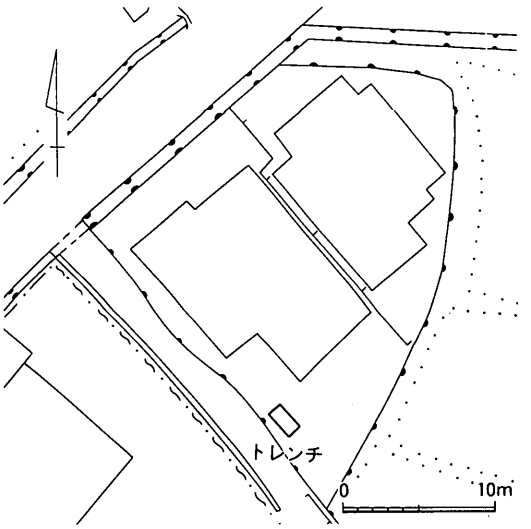
１は第３層から出土した中世の土師質蛸壷である。



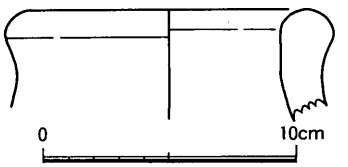
第７０図 飯ノ峯遺跡93-2区トレンチ位置図



第７１図　田山遺跡調査区位置図



第７２図　田山遺跡94-1区トレンチ位置図



第７３図　田山遺跡94-1区出土遺物

９４－２区

a．調査の概要

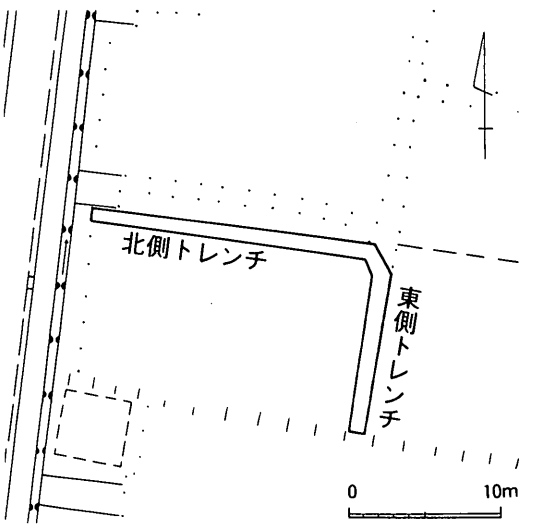
調査区は本遺跡の中央部に位置する。調査は調査区内に１３m×１mの北側トレンチと１６．５m×１mの東側トレンチをＬ字形に設定して実施した。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層耕作土混の床土、第４層暗灰色土、第５層灰色土、第６層暗茶灰色シルト、第７層明褐色粘土(地山)の順であった。遺物は第１層から土師器、瓦器、土師質土器、管状土錘、蛸壷、瓦、陶磁器等が出土した。第２層から土師器、須恵質土器、蛸壷、磁器等、第３層から土師器、須恵器、白土器、瓦器、蛸壷、瓦質土器、製塩土器、有孔土錘が出土した。第５層から土師器、須恵器、蛸壷、焼土塊等が出土した。

b．遺構

地山直上で溝２、土坑１、ピット１を検出した。いずれも中世期のものと思われる。

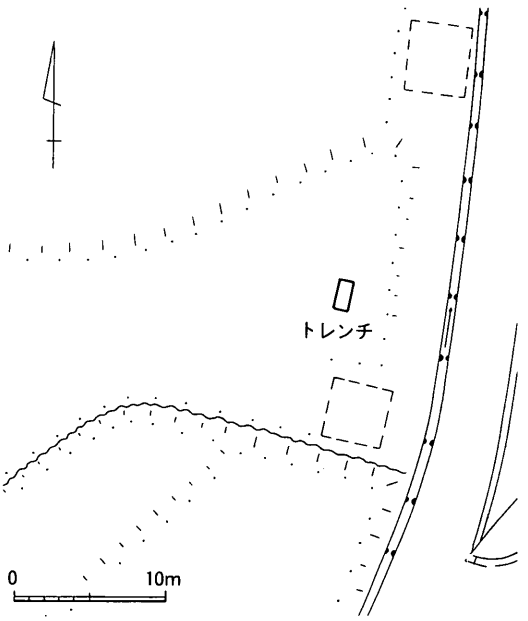
c．遺物

１～６は土師質管状土錘、７は瓦器埦で、第１層から出土した。８は土師質蛸壷、９は須恵質土器、１０は磁器碗で第２層から出土した。１１～２９は第３層から出土した。１１は土師器皿、１２は土師質有孔土錘、１３は製塩土器、１４は蛸壷、１５～２４は須恵器である。１５

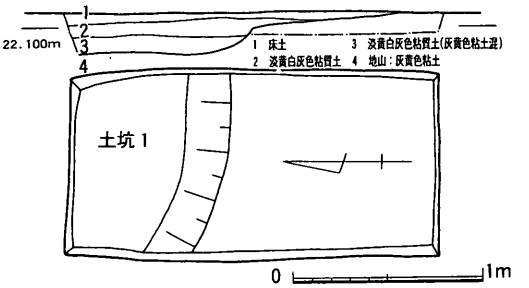


第７４図　田山遺跡94-2区トレンチ位置図

第７６図　田山遺跡94-2区出土遺物



第７７図　田山遺跡94-3区トレンチ位置図



第７８図 田山遺跡94-3区平面図東側断面図

～１８は坏蓋、１９・２０は坏身、２１は皿である。２２～２４は甕である。２５～２８は瓦器埦で、２９は陶器の摺鉢である。３０は第５層出土の須恵器坏身である。

９４－３区

ａ．調査の概要

調査区は本遺跡の東端に位置し、調査区内に２ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。基本層序は、第１層床土、第２層淡黄白灰色粘質土、第３層灰黄色粘質土（地山）の順であった。第２層で土師器を数点出土したが器種、時代は不明である。

ｂ．遺構

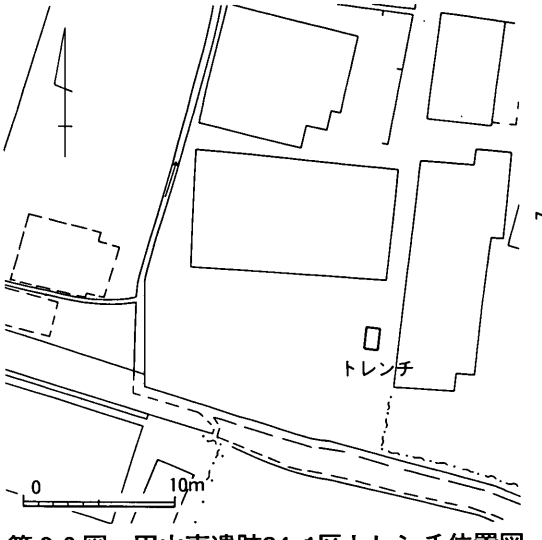
第３層上面で土坑１を検出したが、遺物は出土しなかった。土坑の埋土は淡黄白灰色粘質土（灰黄色粘質土混）である。

第17節　田山東遺跡

田山東遺跡は、1988年度に実施された文化財分布調査によって周知された田山遺跡西北部に拡がる中世期を中心とした遺跡である。既往の調査では、須恵器、土師器、須恵質土器、瓦器等の中世期の遺物が出土している。

本年度、公共工事の折、海岸線より２００ｍの付近で、焼けた痕跡のある蛸壺や焼土を含んだ遺構が検出された。この遺構は、蛸壺を焼成する際に使用したものと考えられる。

第７９図　田山東遺跡調査区位置図

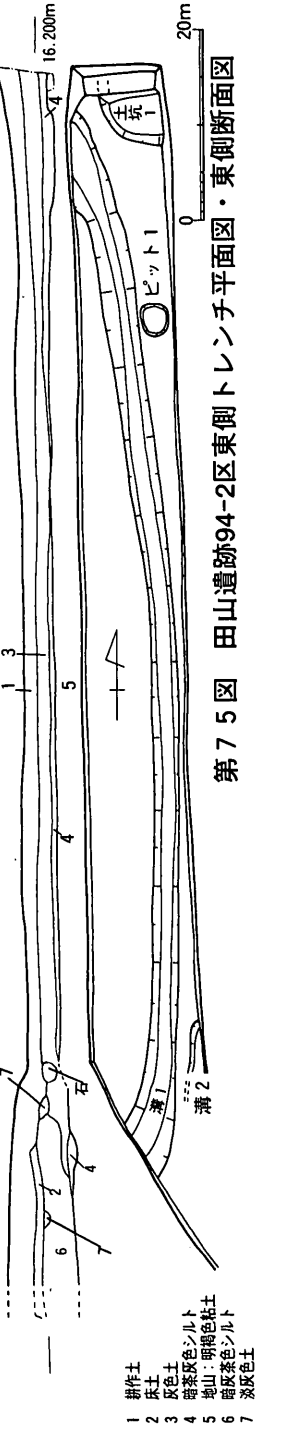


第８０図　田山東遺跡94-1区トレンチ位置図

９４－１区

ａ．調査の概要

調査区は本遺跡の北部に位置する。調査区内に１.５ｍ×１ｍのトレンチを設定して実施した。現地表面下約０.６ｍで近代の建物基礎を検出、本工事に伴う土



第７５図　田山遺跡94-2区東側トレンチ平面図・東側断面図

木工事では、掘削が約０.５ｍしかおよばないため、この段階で調査を終了した。そのため地山は確認できなかった。基本層序は、第１層盛土、第２層暗茶灰色砂質土であった。遺構、遺物ともに出土しなかった。

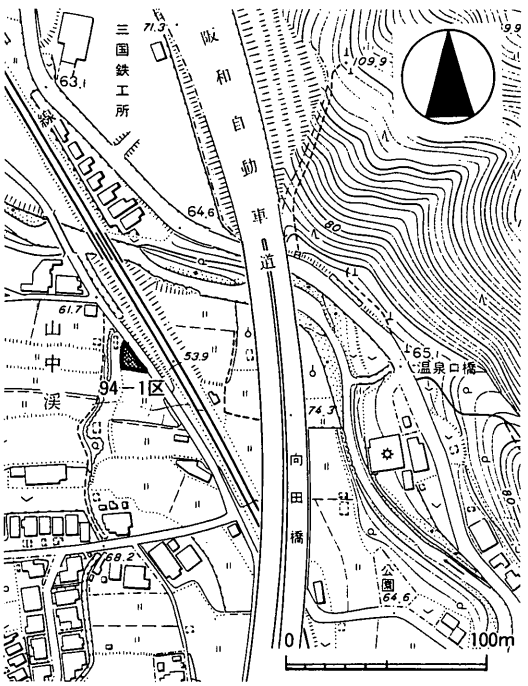
第18節　山中渓遺跡

山中渓遺跡は、阪南市の南東部、大阪から和歌山へぬける紀州(熊野)街道に隣接する、男里川水系山中川が形成した谷合に拡がる。1988年に実施した分布調査により発見周知された。この分布調査では、土師器、青磁等が採取されている。隣接する旧街道の改修工事時の調査では、瓦、土師器、陶磁器等遺物を出土している。

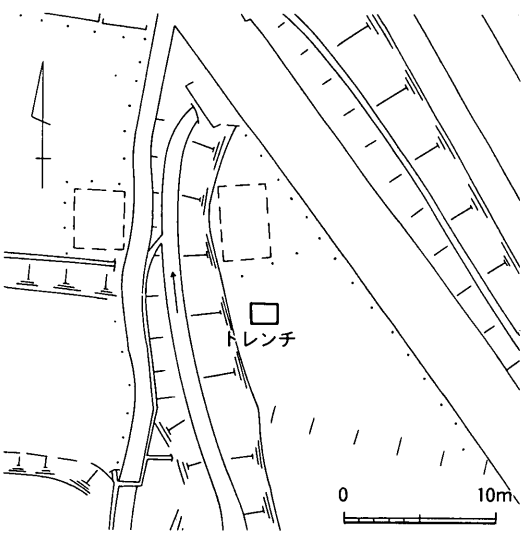
９４－１区

ａ．調査の概要

調査区は本遺跡の北部に位置する。調査区内に１.５ｍ×２ｍのトレンチを設定して実施した。現地表下約１.５ｍの盛土以下、暗茶黒色礫混土の地山を確認した。地山で遺構確認をしたが検出されず、遺物も出土しなかった。



第８１図　山中渓遺跡調査区位置図



第８２図 山中渓遺跡94-1区トレンチ位置図

第4章　まとめ

以上、今年度の調査報告をおこなった。例年にもれず、小規模な調査ばかりであった。いくつかの遺跡でこれまでの調査結果を裏付けることができた。

縄文時代晩期から弥生・古墳時代の遺跡として知られている馬川北遺跡では、今回の調査でも中世期のもののほか、古墳時代の遺物が出土している。また、馬川北遺跡に隣接する馬川遺跡では、弥生時代後期の壷の底部が出土している。やはり、この馬川遺跡周辺には、弥生時代から古墳時代の集落跡等が存在することが想定される。また、田山遺跡では今年3調査地区における調査でも漁撈関連遺物、製塩土器等が確認されている。田山地区のかなりの広範囲において生活跡が存在していたものと思われる。

一方、これまでの調査で知られていなかった点では、主に中世期の遺跡とされていた鳥取遺跡で弥生式土器が確認された。これは、既往の調査で弥生時代後期の遺構、遺物が確認されている近接の鳥取南遺跡との関連性が検討課題となろう。

以上簡単ではあるが、今年度の調査結果をまとめてみた。冒頭に記したとおり、小規模な調査ばかりであったが、若干の成果をあげることができたと考えている。今後の調査に生かしたい。

報告書抄録

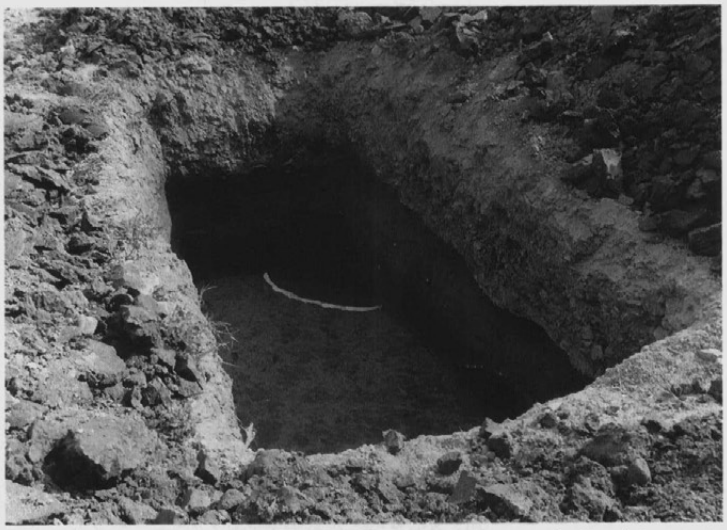
ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざい はっくつちょうさがいよう
書　　名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要　X
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ 名	阪南市埋蔵文化財報告　XIX
シリーズ 番号	１９
編 著 者 名	三好義三・田中早苗・上野仁
編 集 機 関	阪南市教育委員会社会教育課
所 在 地	599-02　大阪府阪南市尾崎町35-1　TEL 0724-71-5678
発行 年月日	西暦1995年　3月　31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査面積 m²	調査原因
おざきかいがん 尾崎海岸	おおさかふはんなんし 大阪府阪南市 おざきちょう 尾崎町	27232	65	34° 21′ 47″	135° 14′ 43″	1.1	住　宅
同　上	同　上	27232	65	34° 21′ 39″	135° 14′ 29″	5	住　宅
ふくしま 福　島	同　上	27232	36	34° 21′ 58″	135° 15′ 00″	3	住　宅
うまがわきた 馬川北	同　上	27232	61	34° 21′ 35″	135° 14′ 46″	3.6	住　宅
うまがわ 馬　川	阪南市　しもいで 下出	27232	39	34° 21′ 20″	135° 15′ 04″	2.4	住　宅
同　上	同　上	27232	39	34° 21′ 22″	135° 14′ 55″	4	住　宅
同　上	同　上	27232	39	34° 21′ 23″	135° 15′ 11″	1.8	住　宅
同　上	同　上	27232	39	34° 21′ 22″	135° 15′ 00″	1.5	住　宅
同　上	同　上	27232	39	34° 21′ 28″	135° 15′ 03″	2.5	住　宅
じねんだ 自然田	阪南市　じねんだ 自然田	27232	35	34° 20′ 33″	135° 15′ 33″	2	住　宅
じんこうじ 神光寺 (蓮池)	阪南市　いしだ 石田	27232	20	34° 20′ 04″	135° 14′ 30″	2	住　宅

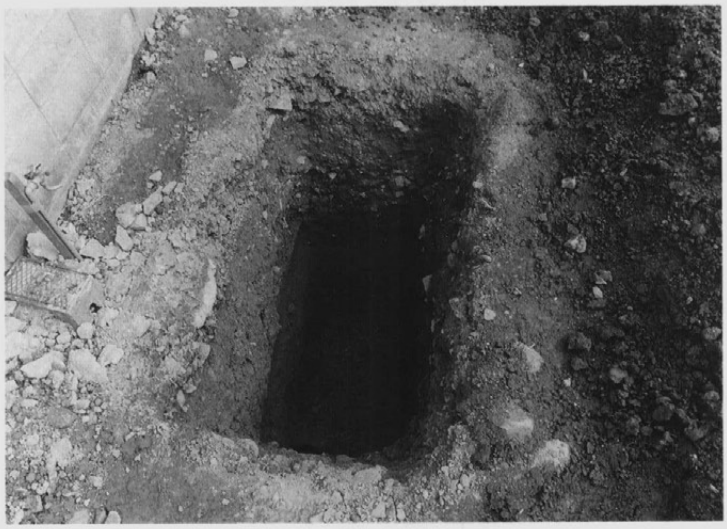
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査面積 m²	調査原因
下出（しもいで）	阪南市 鳥取中（とっとりなか）	27232	66	34° 21′ 14″	135° 14′ 37″	2	住宅
高田（こうだ）	阪南市 自然田（じねんだ）	27232	10	34° 20′ 50″	135° 15′ 46″	2	住宅
高田南（こうだみなみ）	同上	27232	46	34° 19′ 46″	135° 15′ 55″	2	住宅
黒田（くろだ）	阪南市 黒田（くろだ）	27232	67	34° 20′ 10″	135° 14′ 38″	4.5	住宅
波有手（ぼうで）	阪南市 鳥取（とっとり）	27232	69	34° 20′ 59″	135° 14′ 09″	2.3	住宅
鳥取（とっとり）	阪南市 新町（しんまち）	27232	53	34° 21′ 01″	135° 14′ 21″	3	住宅
同上	阪南市 鳥取（とっとり）	27232	53	34° 21′ 00″	135° 14′ 24″	4.4	住宅
鳥取南（とっとりみなみ）	同上	27232	55	34° 20′ 55″	135° 14′ 11″	2	住宅
同上	同上	27232	55			7	住宅
西鳥取（にしとっとり）	同上	27232	56	34° 20′ 48″	135° 13′ 54″	2.3	住宅
同上	同上						
同上	同上	27232	56	34° 20′ 47″	135° 13′ 59″	4	住宅
同上	同上	27232	56	34° 20′ 46″	135° 13′ 55″	1.5	住宅
飯ノ峯畑（いいのみねばた）	阪南市 箱作（はこつくり）	27232	37	34° 20′ 03″	135° 13′ 11″	2	住宅
田山（たやま）	同上	27232	22	34° 20′ 04″	135° 12′ 28″	2	住宅
同上	同上	27232	58	34° 20′ 05″	135° 12′ 21″	30	住宅
同上	同上	27232	58	34° 20′ 04″	135° 12′ 22″	2	住宅
田山東（たやまひがし）	同上	27232	58	34° 20′ 16″	135° 12′ 36″	1.5	住宅
山中渓（やまなかだに）	阪南市 山中渓（やまなかだに）	27232	60	34° 19′ 39″	135° 15′ 52″	3	住宅

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	生産遺跡		ピット3	寛永通宝・製塩土器・蛸壷・管状土錘・貝殻・焼土塊	
同　上	同　上	不　明		土師器・蛸壷	
福　島	散布地	不　明			
馬川北	同　上	不　明	土坑1	土師器・須恵器・陶器・瓦器	
馬　川	同　上	不　明		須恵器・土師質土器	
同　上	同　上	不　明	ピット1・溝1	瓦・土師質甕・蛸壷・磁器	
同　上	同　上	不　明		土師器・瓦器	
同　上	同　上	不　明	溝1	サヌカイト・土師器・須恵器・瓦	
同　上	同　上	不　明		土師質管土錘・青磁碗	
自然田	同　上	不　明			
神光寺（蓮池）	散布地 社寺その他の墓	不　明			
下　出	散布地	不　明	土坑1・ピット1	近世平瓦・土師質土器・磁器・煙管	
高　田	同　上	不　明		土師器・近世陶器・土師質土器	
高田南	同　上	不　明			
黒　田	同　上	不　明		瓦	
波有手	同　上	不　明		陶磁器・須恵器・銭貨・墓石	
鳥　取	同　上	不　明	溝1	弥生式土器・土師器・須恵器・黒色土器・土師質蛸壷・土師質甕	
同　上	同　上	不　明		土師器・須恵器・瓦器・土師質蛸壷	
鳥取南	同　上	不　明	溝1・ピット1	土師器・須恵器・瓦器	
同　上	同　上	不　明		土師器・磁器・須恵器	
西鳥取	同　上	不　明	溝1	須恵器・土師質土器・土師質管状土錘	
同　上	同　上	不　明		土師質管状土錘	
同　上	同　上	不　明	溝1・ピット1	瓦・土師質土器・陶磁器	
同　上	同　上	不　明		須恵器・磁器・土錘	
飯ノ峯畑	同　上	不　明		製塩土器・焼土塊	
田　山	同　上	不　明		土師器・蛸壷	
同　上	同　上	不　明	溝1・溝2・土坑1 ピット1	土師器・瓦器・土師質土器・管状土錘・蛸壷・瓦・陶磁器 須恵器・白土器・瓦質土器・製塩土器・有孔土錘・焼土塊	
同　上	同　上	不　明	土坑1	土師器	
田山東	同　上	不　明			
山中渓	同　上	不　明			

尾崎海岸遺跡94－1区トレンチ全景（北より）

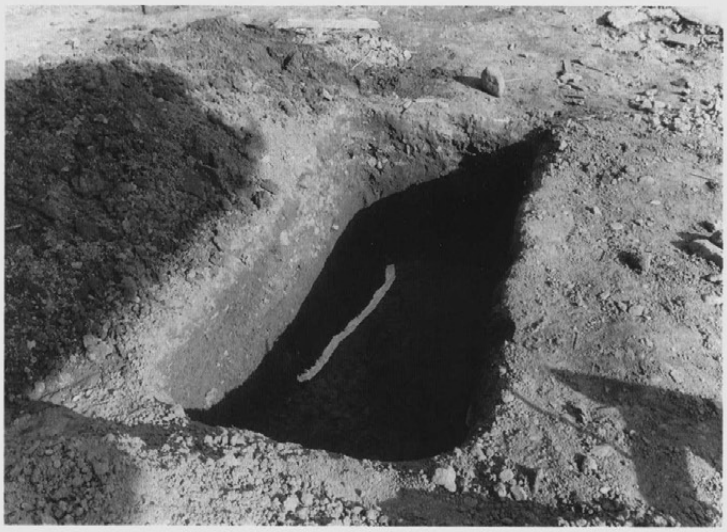


馬川北遺跡94－2区トレンチ全景（北より）



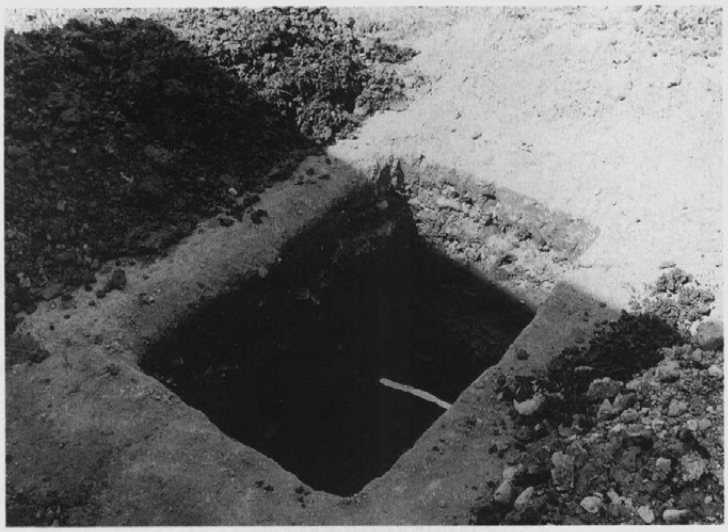
馬川遺跡93－5区トレンチ全景（西より）

馬川遺跡94－1区１トレンチ全景（南より）



馬川遺跡94－1区２トレンチ全景（北より）

馬川遺跡94－2区トレンチ全景（北より）



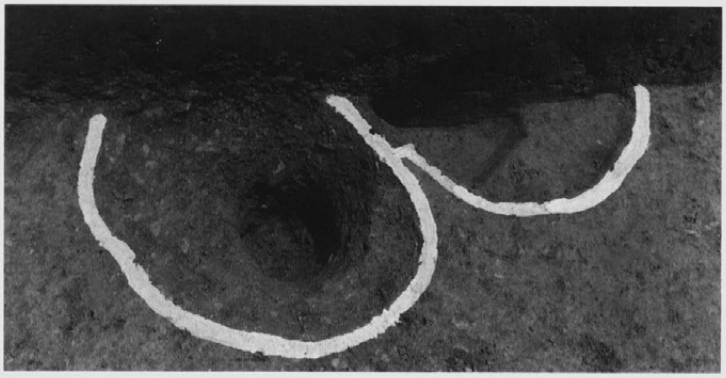
馬川遺跡94－3区トレンチ全景（南より）

馬川遺跡94－6区トレンチ全景（北より）

神光寺（蓮池）遺跡94－1区トレンチ全景（南より）

自然田遺跡94－1区トレンチ全景（北より）

下出遺跡94－1区トレンチ全景（南より）



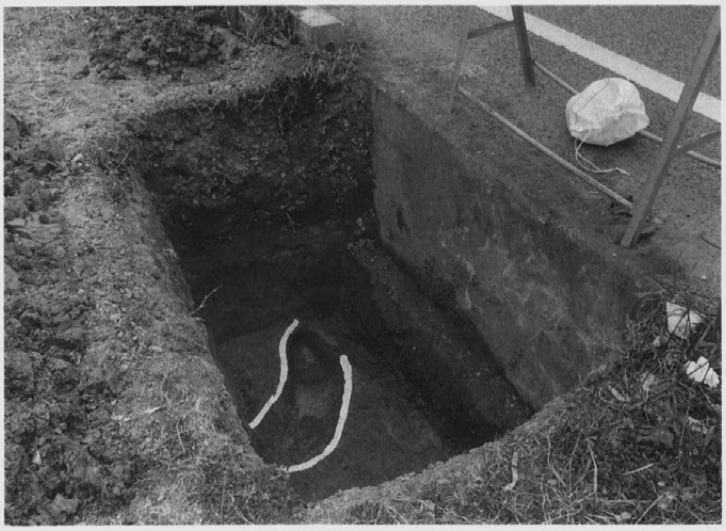
下出遺跡94－1区　ピット１、土坑１（西より）

高田遺跡94－1区トレンチ全景（北より）

高田南遺跡94－1区トレンチ全景（南より）

黒田遺跡94－1区トレンチ全景（南より）

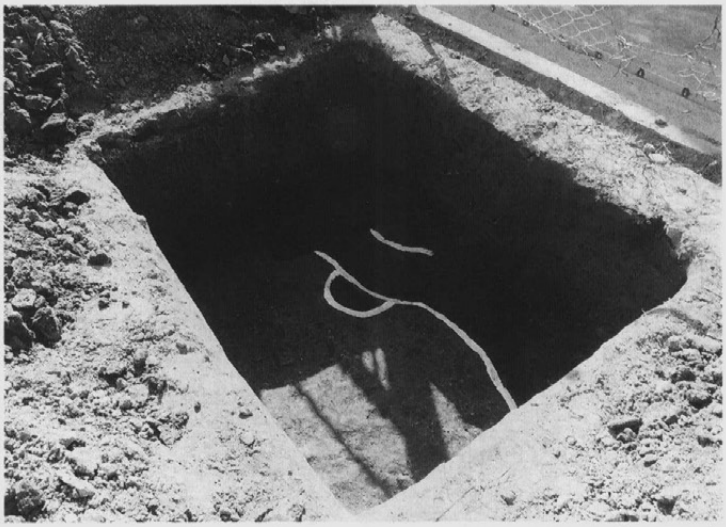
波有手遺跡94－1区３トレンチ全景（東より）



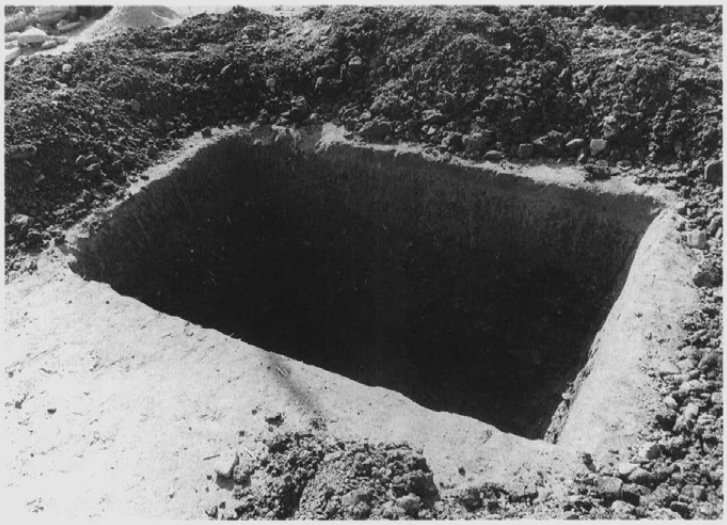
鳥取遺跡93－4区トレンチ全景（南より）

鳥取遺跡93－4区　溝１（南より）

鳥取遺跡94－1区トレンチ全景（西より）



鳥取南遺跡93－2区１トレンチ全景（北より）



鳥取南遺跡93－2区２トレンチ全景（東より）

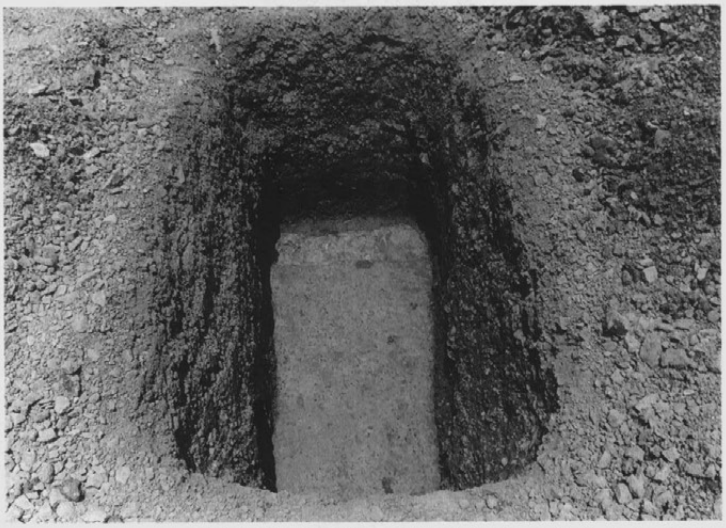
鳥取南遺跡94－3区トレンチ全景（南より）

西鳥取遺跡93－4区トレンチ全景（東より）

西鳥取遺跡93－4区　溝１東側断面

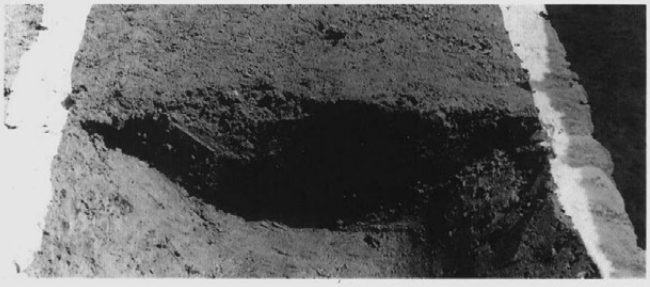
西鳥取遺跡93-5区トレンチ全景（北より)

西鳥取遺跡94-2区１トレンチ全景(南西より)



飯ノ峯畑遺跡93-2区トレンチ全景（南より）

田山遺跡94-2区東側トレンチ全景（南より）



田山遺跡94-2区　溝１断面

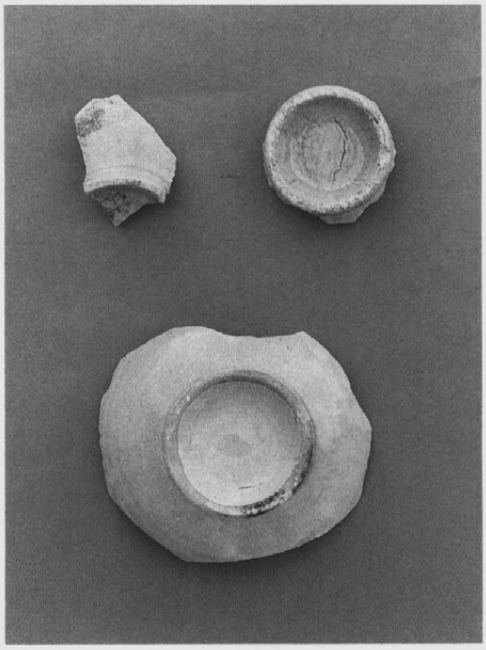
田山遺跡94-1区トレンチ全景（北より）

田山遺跡94-3区トレンチ全景（南より）

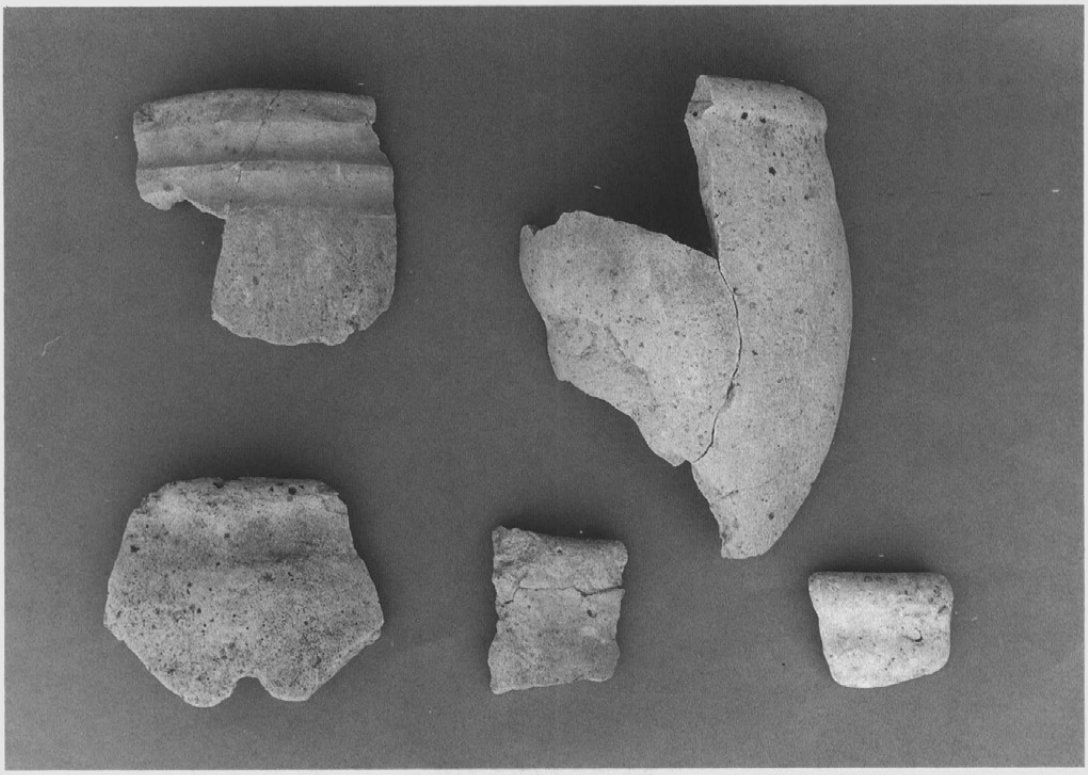
田山東遺跡94-1区トレンチ全景（東より）

尾崎海岸遺跡94-1区出土遺物

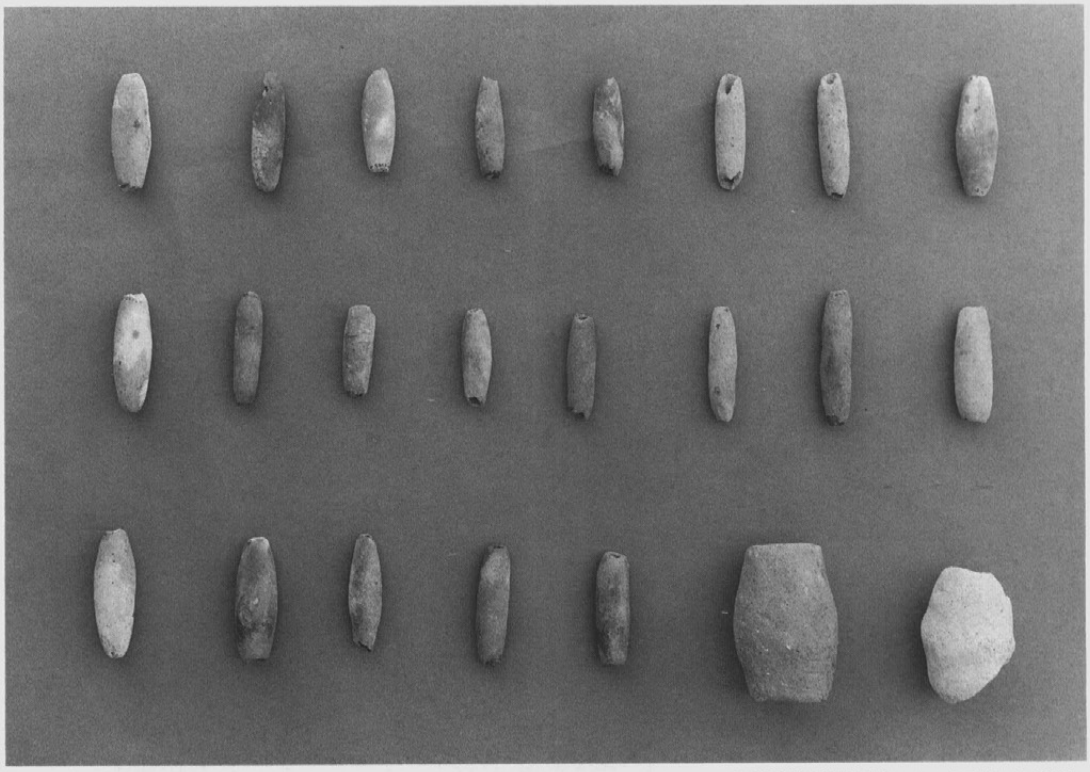
尾崎海岸遺跡
94-1区
出土遺物



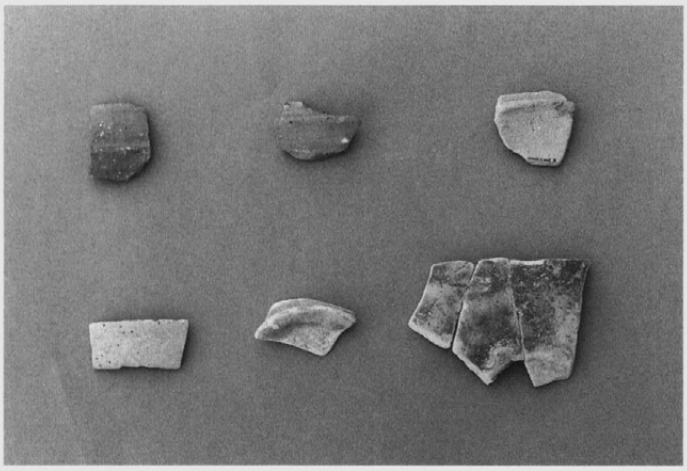
尾崎海岸遺跡94-2区出土遺物



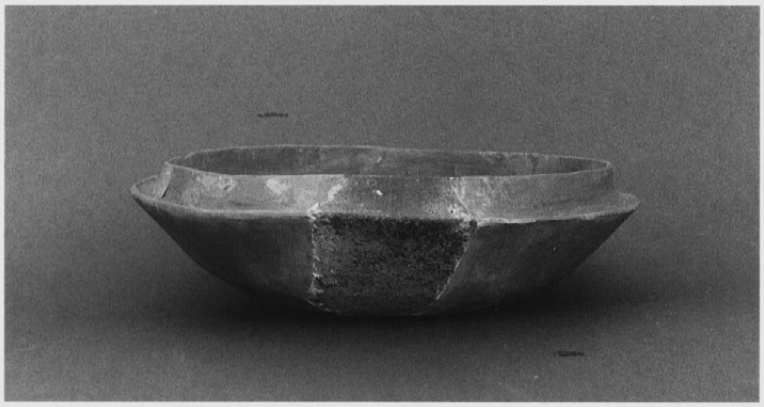
尾崎海岸遺跡94-2区出土遺物



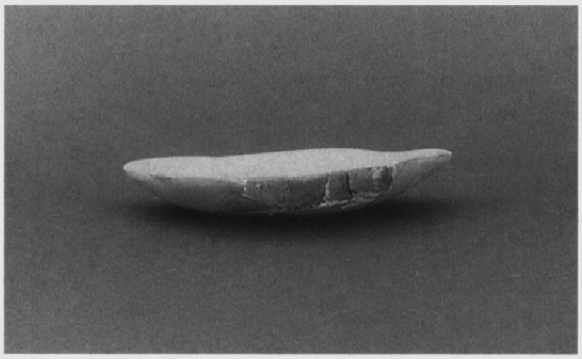
尾崎海岸遺跡94-2区出土遺物



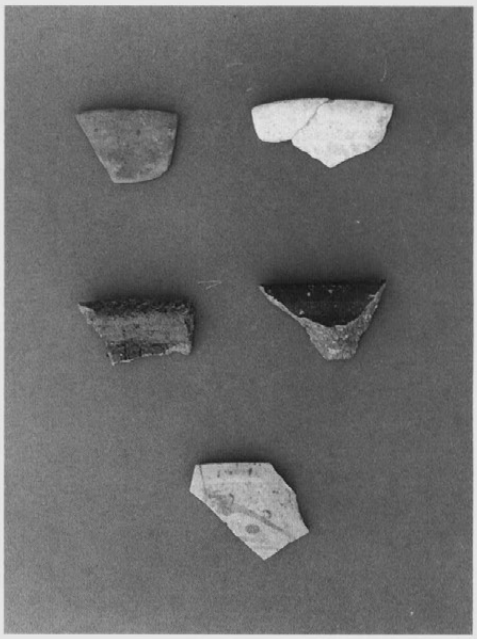
馬川北遺跡94-2区出土遺物



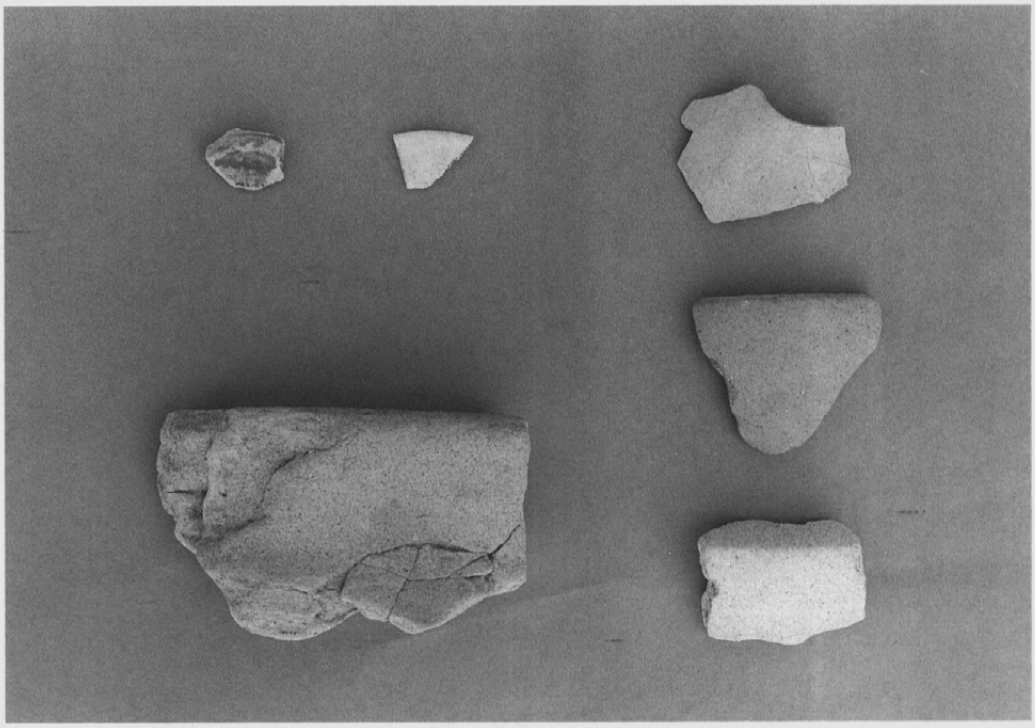
馬川北遺跡94-2区出土遺物



馬川北遺跡94-2区出土遺物

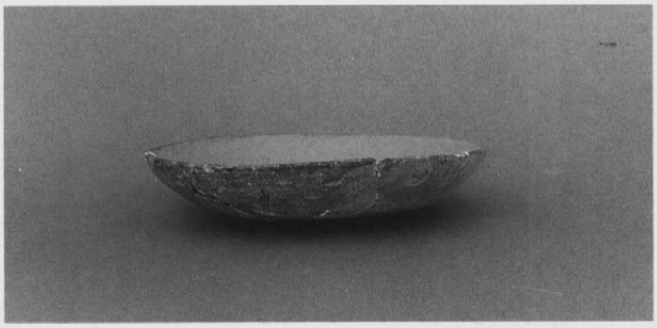


馬川遺跡93-5区出土遺物

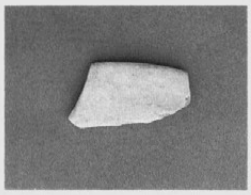


馬川遺跡94-1区出土遺物

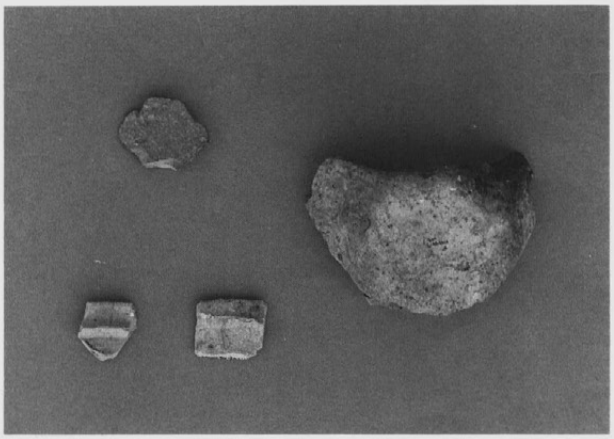
馬川遺跡94-1区出土遺物



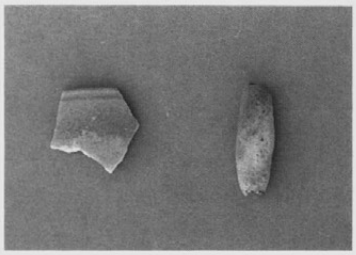
馬川遺跡94-1区出土遺物



馬川遺跡94-2区出土遺物

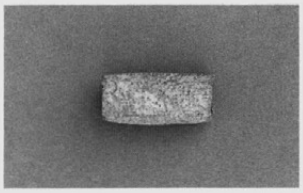


馬川遺跡94-3区出土遺物

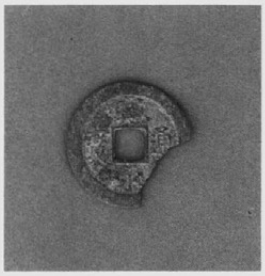


馬川遺跡94-6区出土遺物

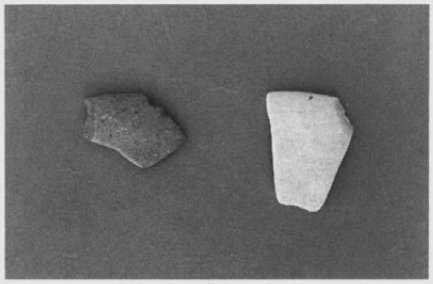
下出遺跡94-1区出土遺物



下出遺跡94-1区出土遺物



波有手遺跡94-1区出土遺物

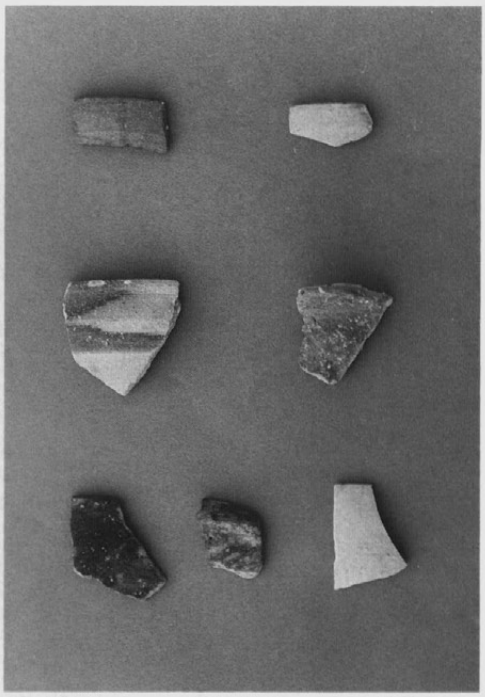


高田遺跡94-1区出土遺物

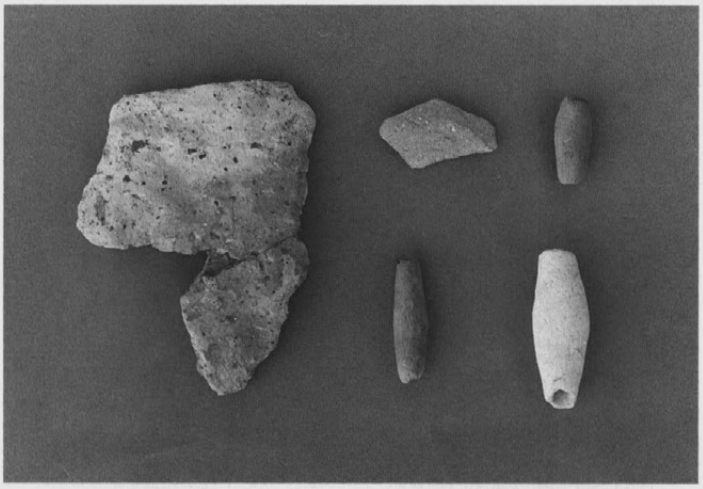
波有手遺跡94-1区出土遺物

波有手遺跡94-1区出土遺物

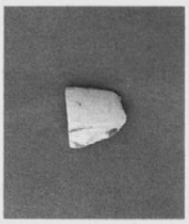
波有手遺跡94-1区出土遺物



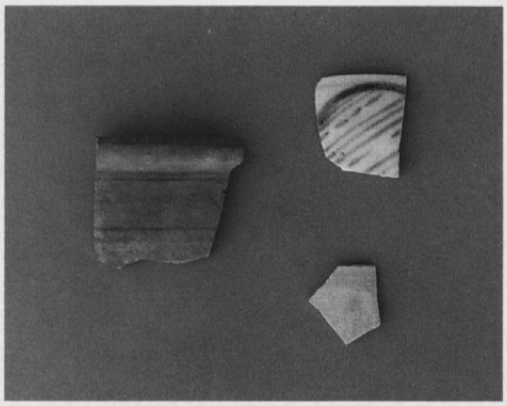
鳥取遺跡93-4区出土遺物



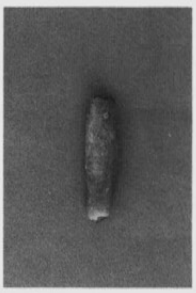
鳥取遺跡94-1区出土遺物



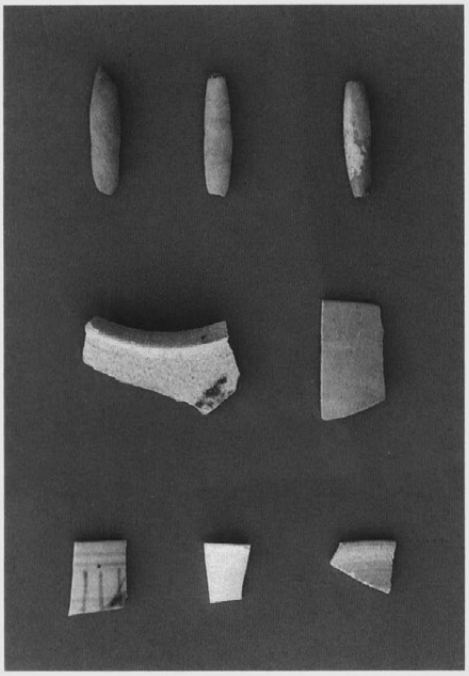
鳥取南遺跡94-3区出土遺物



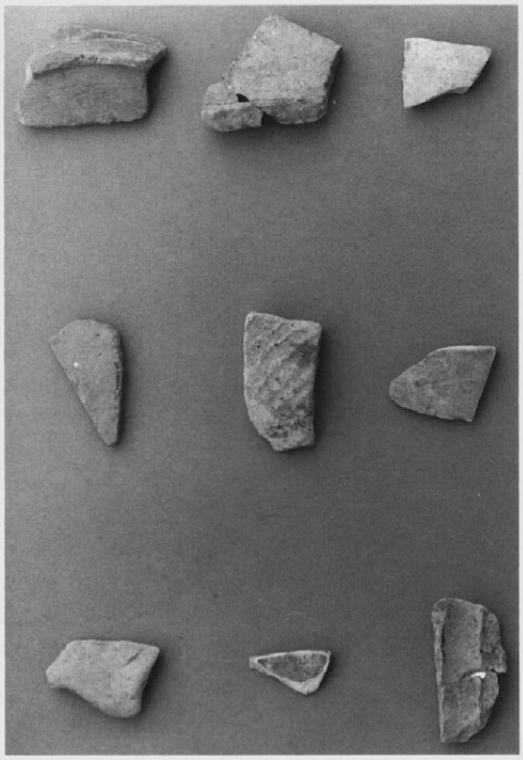
西鳥取遺跡93-6区出土遺物



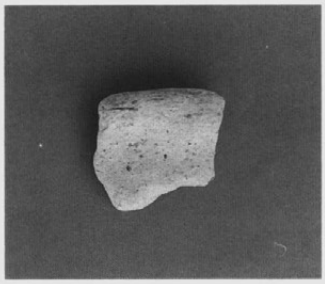
西鳥取遺跡93-5区出土遺物



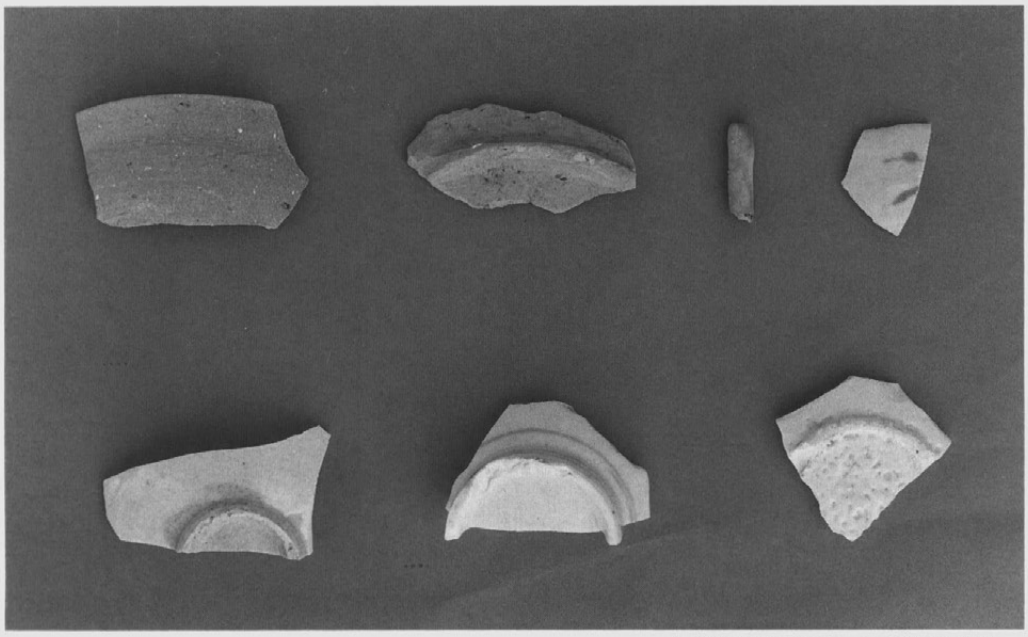
西鳥取遺跡93-4区出土遺物



鳥取南遺跡93-2区出土遺物

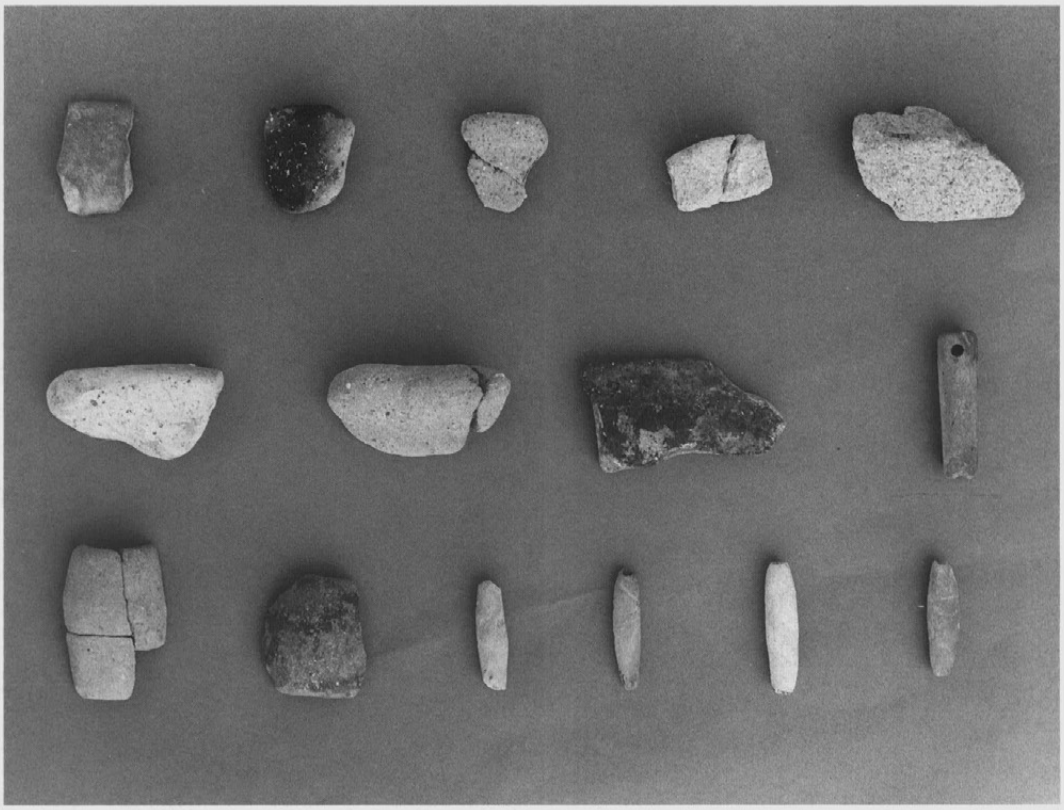


田山遺跡94-1区出土遺物



西鳥取遺跡94-2区出土遺物

田山遺跡94-2区出土遺物



田山遺跡94-2区出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告XIX

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要X

1995年3月

発　行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54